

和仏法律学校講義録

田阪, 友吉 / 岩田, 一郎 / 栗津, 清亮 / 荒井, 賢太郎 / 田
代, 律雄 / 松本, 烝治

(出版者 / Publisher)

和佛法律學校

(巻 / Volume)

2-14

(開始ページ / Start Page)

1

(終了ページ / End Page)

61

(発行年 / Year)

1903-05-26

（明治三十五年十一月四日第三號發售可也 每月廿一號一日三號五日六日八日十日十一日十二日十七日十八日廿一日廿三日廿五日廿六日廿七日廿八日廿九日三十日發行）

明治三十六年五月二十六日發行

三十六年度 第二學年ノ十四

和佛法律學子校講義錄

第百拾號

和佛法律學校

0 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 1 2 3 4 5 6 7 8 9 20 1 2 3

第二學年第十四號目次

民法債權第一章(自四六)

法學士 荒井賢太郎

民法債權第三章(自一六)

法學士 田代律雄

商法總則(自一八七)

法學士 松本 丞治

商法商行爲(自一四一)

法學士 田阪友吉

商法商行爲第十章(自一四七)

法學士 粟津 清亮

民事訴訟法第二編(自一六八)

法學士 岩田 一 耶

雜報

○株式會社成立前其會社ノ爲メニスル行爲○株主ノ總會ノ決議無效宣告請求權○他物拂手形ノ呈示及ヒ拒絕證書作成ノ地域

090
1903
2-1-14

己ノ有スル權利ヨリ多クノモノヲ請求スルコトヲ得ス債務者ハ自己ノ負擔スル義務ヨリ多クノ義務ヲ履行スルノ責ナシト云フノ理由ヨリ來ル所ノモノナリ債務者カ履行ノ提供ヲ爲シタルニモ拘ハラズ債權者カ不可抗力ヲ理由トシテ其履行ヲ受タルコトヲ拒ミ之ニ因リテ生スル損害ノ責ニ任スルコトヲ免レントセハ債務者ハ其盡スヘキ義務ヲ盡シタルニ拘ハラズ尙ホ其遲滞ノ責ニ任セサルヘカラサルノ結果ト爲ル一言スレハ債務者カ自己ノ責任ニ依ラサル原因ノ爲メニ義務履行ノ遲延シタル場合ニ生スル損害ノ責ニ任スルコトト爲リ結局債務者ヲシテ其負擔スル義務以外ニ尙ホ責任ヲ有セシメ債權者ヲシテ其有スル所ノ權利ヨリ尙ホ多クノ權利ヲ有セシムルモノニシテ此ノ如キハ債權者ノ善意惡意ヲ問ハス許スヘカラサルコトナリ故ニ民法ハ債權者ノ遲滞ノ責ニ任スル場合ハ債權者ニ故意又ハ過失アルヲ必要トセサルモノトセリ債權者カ遲滞ノ責ニ任スル場合ハ既ニ前ニ述ヘタル如ク債務者ノ履行ノ提供ヲ受ケサリシ事實アレハ直チニ遲滞ノ責ニ任スヘキモノニシテ其履行ノ提供ヲ受ケサルコトカ債權者ノ責ニ歸スヘキ事由ナリシヤ否ヤヲ問フノ必要ナレ

090
1903
2-1-14

已ノ有スル權利ニテ多クハテ請求スルコトヲ得ズ債務者ハ自己ノ負擔スル義務ヨリ多クハ義務ヲ履行スルノ責ナシト云フノ理由ヨリ來ル所ノモノナリ債務者ハ履行ノ提供ヲ爲シタルニモ拘ハラズ債權者カ不可抗力ヲ理由トシテ其履行ヲ受タルコトヲ拒ミ之ニ因リテ生スル損害ノ責任スルコトヲ免ジシトモ債務者ハ其盡スヘキ義務ヲ盡シタルニ拘ハラズ尙ホ其遲滞ノ責任セタルヘカヲナルノ結果ト爲ル一言スレバ債務者カ自己ノ責任ニ依ラサル原因ノ爲メニ義務履行ノ遲延タル場合ニ生スル損害ノ責任スルコトヲ爲ラ結局債務者ヲシテ其負擔スル義務以外ニ尙ホ責任ヲ有セシメ債權者ヲシテ其有スル所ノ權利ヨリ尙ホ多クノ權利ヲ有セシムルモノニシテ此ノ如キハ債權者ノ善意惡意ヲ問ハス許スヘカラサルコトナリ故ニ民法ハ債權者ノ遲滞ノ責任スル場合ハ債權者ニ故意又ハ過失アルヲ必要トセサルモノトセリ

債權者カ遲滞ノ責任スル場合ハ既ニ前ニ述べタル如ク債務者ノ履行ノ提供ヲ受クナリシ事實アレバ直チニ遲滞ノ責任スヘキモノニシテ其履行ノ提供ヲ受クサルコトカ債權者ノ責任歸スヘキ事由ナリト否ヤヲ問フニ必要ナシ

民法債權 債權ノ效力

履行ノ提供ハ債務ノ本旨ニ從ヒ現實ニ之ヲ爲スヲ必要トス(第四九三條)故ニ債
務者カ單ニ履行ヲ爲ス旨ヲ債權者ニ通知シタルノミニテハ履行ノ提供ヲ要ス
ル目的物ヲ債權者ノ面前ニ提出シテ始メテ履行ノ提供アリト謂フコトヲ得ルカ
如シ其他履行ノ提供ニ關シ詳細ナルコトハ後ニ辨濟ノ事ヲ説クニ當テ說明者
ハ之ヲ決定スルハ債務者ノ自由ニ由リテ決定スルコトナリ
此ノ如ク履行ノ提供アリタル以上ハ其以後ニ於テハ債務者ハ遲滞ノ責ヲ免レ
之ト反對ニ債權者ハ遲滞ノ責ニ任スヘキモノナリ而シテ債權者ハ遲滞ノ責ニ
任シタル結果ハ(一)債務者ハ義務不履行ニ因リテ負擔セサルヘカラサル一切ノ
責任ヲ免ルルモノトス是レ債務者カ初ヨリ遲滞ノ責ヲ負ハサル場合ハ勿論
且遲滞ノ責ニ任シタル後ニ履行ノ提供ヲ爲シタル場合ニ於テモ亦同シク債務
者ハ總テ義務不履行ヨリ生スル所ノ責任ヲ免ルルモノナリ故ニ債務者カ遲滞
ノ責ニ任シタル結果トシテ負擔セサルヘカラサル所ノ遲延利息人如キ其他危
險ノ負擔人如キ悉ク之ヲ免ルルコトト爲ルヘシ(二)債權者カ遲滞ノ責ニ任シタ

ル結果トシテ之カ爲メ債務者ニ被ラシメタル所ノ一切ノ損害ヲ賠償セサルヘ
カラス即チ債權者カ遲滞ノ責ニ任シタル以後ニ於ケル目的物ノ保存ノ費用ヲ
如キハ債權者之ヲ辨償セサルヘカラサルモノトス(三)債權者カ遲滞ノ責ニ任シ
タル結果トシテ債務者ハ債務ノ目的物ヲ供託シテ其義務ヲ免ルルコトヲ得ル
モノトス供託ノ如何ナルモノナルヤハ辨濟ノ事ヲ述フルニ當リ之ヲ説明スル
第一強制履行ノ事ニ付テハ第四百十四條ニ之ヲ規定セリ曰ク「債務者カ任意ニ債務
ノ履行ヲ爲ササルトキハ債權者ハ其強制履行ヲ裁判所ニ請求スルコトヲ得但
債務ノ性質カ之ヲ許ササルトキハ此限ニ在ラズト蓋シ強制履行トハ債務者カ
任意ニ其義務ヲ履行セサルトキニ債權者カ公力ヲ假リテ債務者ヲシテ義務ノ
履行ヲ爲サシメ其債權ノ目的ヲ達スルコトヲ謂フモノナリ」又「債務者ハ如何
ナル債務カ強制履行ヲ許シヘキモノナリヤ」付テハ民法ハ損害ニ於テ「債
務ノ性質カ之ヲ許ササルトキハ此限ニ在ラズト規定シ荷モ債務ノ性質カ強制

履行ヲ爲スコト能ハサル場合ヲ除キテ如何ナル債務ト雖モ強制履行ヲ爲ス
コトヲ得ルコトヲ原則トセリ此強制履行ノ事ニ關シテハ新舊民法間ニ於テ
其主義ヲ異ニスルモノノ如シ從來強制履行ヲ許スルハ債務ノ範圍ヲ定ムルコ
トニ付テハ二箇ノ主義アリ一ハ人權ヲ基礎トシテ人ノ自由ヲ束縛スルコトヲ
得ス故ニ自由ヲ束縛スルカ如キコトハ總合公力ヲ假リテ之ヲ履行スルモノ
コトヲ許スベキモノニ非ズ云フニ在リ即チ舊民法ハ此主義ニ依リテ強制履
行ノ範圍ヲ定メタリ舊民法財産編第三百八十二條ニ於テハ強制履行ハ債務者
ノ身體ヲ拘束セシメ履行セシムルコトヲ得ルトキニノミ限リ之ヲ許セリ身
體ヲ拘束スルハ債務者ノ自由ヲ束縛シ人權ヲ害スルコト甚シキモノナリトノ
理由ヲ以テ此ノ如キ場合ハ強制履行ヲ許スベキモノニ非ズトキモ他方主
義ハ強制履行ヲ許ササル場合ハ事實上不能ノ場合ニ限ルモノト爲ス例ヘテ或
畫工ニ畫ヲ描カシムル契約ヲ爲シタル場合ニ於テ其者ハ畫ヲ描カント欲セ
タルトキハ如何ニ公力ヲ用フルヲ畫工ヲシテ筆ヲ執ラシムルモノナリ到底不能
ノ事ニ屬スルカ故ニ此ノ如キ場合ニモ事實上強制履行ハ其效ヲ無キナルモノ

ナリ然レトモ之ニ反シテ或俳優ニ一定ノ期間或劇場ニ出演スルコトヲ禁スル
約束ノ如キハ若シ俳優カ違約ヲ爲シ其劇場ニ上ルカ如キコトヲヤコ公力ヲ假
リテ之ヲ場外ニ追出スコトヲ得ルモノナリ斯ル場合ニモ勿論俳優ノ身體ヲ拘
束シ自由ヲ制限スルニハ相違ナキモ事實上強制履行ヲ爲スコト能ハサルモノ
ニハ非ズ況ヤ其身體ヲ拘束シ自由ヲ制限セラルモノに至リタル原因ハ債務者カ
爲シタル合意ノ結果ニ外ナラスセテ任意ニ自己ノ自由ヲ制限セタルモノナリ
此ノ如キ合意ヲ效力アリト認ムル以上ハ其當然ノ結果タル自由ヲ制限ヲ許ス
コトハ毫モ差支ナシトノ說ニシテ新民法ハ果シテ此第二說ノ如ク強制履行ハ
事實上不能ノ場合ニ限リテ之ヲ禁シ其他悉ク之ヲ許スル主義ヲ採ラザルニ
否ヤハ單ニ債務ノ性質ナル文字ヲ用セタルノミナルニ依リ不明ナル點ナキ
非スト雖モ民法ノ理由書ニ徴シ若クハ特ニ舊民法ノ法文ヲ改メテ解釋スル
リ之ヲ觀ルトキハ恐クハ第二ノ主義ヲ採用シタルモノナルハ明ニ顯ニ見
如何ナル債務カ果シテ強制履行ヲ許ササル債務ナルヤハ事實裁判官ノ認定ニ
依ルヲ外ナキモ之ヲ概言スルトキモ有體物ノ給付ヲ目的トスル債務ハ總テ強

制履行ヲ請求スルコトヲ得ルモノナリト謂フコトヲ得ルシ唯作爲ヲ目的トスル債務ニ付テハ或ハ強制履行ヲ許シ場合アリ或ハ事實上之ヲ爲スコトヲ得タル場合モアルヘシ其強制履行ヲ爲スコト能ハサル場合ニハ損害賠償ヲ請求スルヨリ外他ニ途ナキモノナリ第四百十四條第二項ニ債務ノ性質ヲ強制履行ヲ許ササル場合ニ於テ其債務ヲ作爲ヲ目的トスルトキハ債權者ハ債務者ヲ費用ヲ以テ第三者ニ之ヲ爲サシムルコトヲ裁判所ニ請求スルコトヲ得ル旨ヲ規定セリ即チ強制履行ヲ許ササル債務ニ付テハ第三者ヲシテ代リテ之ヲ爲サシムル場合ヲ規定セルモノニシテ強制履行ヲ許ササル場合ニハ損害賠償ヲ請求スルヨリ外ニ途ナキモノナレトモ若シ債權者以外ノ人ヲ以テシテモ同ノ目的ヲ達スルコトヲ得ル場合ニ於テハ債權者ハ第三者ニ之ヲ爲サシムルコトヲ請求シテ其費用ヲ債務者ヲシテ負擔セシムルコトヲ得是レ實際債務者ニ取リテハ一ノ損害賠償ニ外ナラサルナリ唯其損害賠償ノ金額ヲ普通ノ場合ト異ナリテ他働的ニ定マルト云フニ過キス然レトモ債權者ヨリ之ヲ觀ルトキハ債權ノ目的ヲ達シタルモノナルガ故ニ履行ヲ一層下看ルニ下步得ムコトモ當然ナル

總ニ作爲ヲ目的トスル債務ハ第三者ヲシテ代リテ爲サシムルコトヲ得ルヤ否キ之ニ關シテハ代リテ爲サシムルコトヲ得ルモノハ代其之ヲ爲スモノトモ得ルモノハ代其ノニアリ作爲ヲ目的トスル債務ニ付テ債務者ハ一身ニ著眼シタル場合ニ債務ヲ任意ニ其債務ヲ履行セサルトキハ第三者ヲシテ代リテ之ヲ履行セサルコトヲ得スル場合ニ於テハ損害賠償ヲ請求スルモノ外途ナカレヘ之ニ反シテ債務者ハ一身ニ著眼セサル場合ニ於テ何人カ之ヲ爲スモノトモ債權ノ目的ヲ達スルコトヲ得ルガ故ニ若シ債權者ハ任意履行ヲ肯セサルトモ債權者ハ他ヲシテ代リテ爲サシムルコトヲ裁判所ニ請求スルコトヲ得ルモノトモ得ルモノハ代其之ヲ爲スモノトモ得ルモノハ代其ノニアリ作爲ヲ目的トスル債務ニ付テハ裁判所ニ以テ債務者ハ任意表示ニ代スルコトヲ得ル規定有リ例ヘバ或物權ヲ設定スル義務ヲ負擔スル債務者ハ其設定ヲ爲ササルトキハ裁判所ニ請求スル裁判ノ結果ニ因リ物權ヲ設定セサルガ如キ是レ蓋シ法律行為ニテ當事者ハ意思表示ヲ必要トスルガ故ニ若シ債權者ハ意思表示ヲ爲ササルトモ債權者ハ裁判

行ヲ缺キタル場合ニ於テモ、債權者ハ損害ヲ被リシメタルトキハ、之ヲ賠償ノ責任ヲ負ルモノト得テ、其ノ責任者ノ責ニ歸スベキナリ。原因即チ不可抗力ノ爲メニ義務ノ履行ヲ缺キタル場合ニハ、債務者ニ遲滞ノ責ナキト同時ニ損害賠償ノ責任ナキモノトス。但其不可抗力ニ因リ義務ノ履行ヲ缺キテ至ラシメタル所ニ於テハ、債務者ノ過失ニ基キタル場合ニハ、矢張債務者ニ損害賠償ノ責任アルハ勿論ナリ。例ヘバ、載物ヲ引張ルノ契約ニ於テ、其動物ノ病ノ爲メ、斃死シタルトキハ、不可抗力ニ因リテ履行ノ不能ト爲リタルモノニシテ、債務者ニ損害賠償ノ責任ナシト雖モ、其動物ヲ引張ルノ病ニ罹ラシメタルモノトシテ、債務者ノ不注意ニ基因シタルモノトキハ、債務者ハ保存ノ義務ヲ盡サザルモノトシテ、債務者ニ過失ノ存スルモノナレバ、損害賠償ノ責任ヲ負フモノナリ。舊民法ハ、債務者ノ惡意ト善意トニ依リ損害賠償ノ範圍ニ差等ヲ置キ、新民法ハ、此區別ヲ認メズ、債務者ノ意思ノ如何ハ損害賠償ノ範圍ニ影響ヲ及ボサズ、其モノトモテ蓋シ損害賠償ハ、債權者ノ受ケタル損害ヲ補填スルモノト目的トスルカ故ニ、損害ノ程度如何ハ之ヲ究ムルノ必要アルモ、尙モ其程度ニシテ同一

ナル以上ハ之ヲ生ゼシメタル債務者ノ意思ノ狀態如何ハ之ヲ問フ必要ナキモノト明ハナルヘカラス。然レトモ如何ナル場合ニ於テモ、債務者ハ不履行ノ債務者ノ責ニ歸スベキ事由ニ存スルモノト必要トスルカ故ニ、若シ債務者ニ何等シ過失ナカリシ場合ニハ、勿論賠償ノ責任ヲ擔當債務者ニ過失アリトスルモ、同時ニ債權者ニモ過失アリタル場合ニハ、債務者ハ過失ノ責任ニ付スルト同時に、債權者モ亦自己ノ過失ノ責任ニ付セタルヘカラス。故ニ斯ル場合ニ於テハ、損害賠償ノ額ハ裁判所ニ於テ適宜斟酌スルコトヲ許セリ。第四百十八條ノ規定是ナリ。

(二) 債務者カ義務ノ履行ヲ缺キタルカ爲メ、債權者ニ損害ヲ被リシメタルコトヲ必要トス。若シ債務者カ義務ノ履行ヲ缺クモ、雖モ之カ爲メ債權者ニ何等ハ損害ヲ及ボサザルモノトキハ、債權者ハ損害賠償ヲ請求スルノ權利ナキモノトス。權利ハ法律ニヨリ保護セラルル利益ナリ。トテ主權ヨリ言ベバ、債權者カ權利ヲ被損セラルタル以上ハ、幾ニ損害アリト明カラ得ルハ、如何シト雖モ、實際履行ノ當時ニ於テハ、其不履行ハ何等ノ損害ヲ生ゼタル場合ナキニ非ズ。斯ル場合ニ於テハ、雖令債務者不履行アリシトテ之カ爲メ債權者ハ何等損害ヲ被リタル事實ナキヲ以テ

シ賃借人カ從前以借家ニ於テ或商業ヲ營ミ居テシモ多ナルガ爲メ他ニ移轉シタル結果トシテ商業ヲ得意先ヲ失フト云フガ如キ不利益ハ附屬的ナルコトヲタラトモ右ハ其賃借人ニ特別ノ事情ニ因リテ生スル損害ナルガ故ニ第四百十六條第一項ニ依リ通常生スヘキ損害トシテハ之ヲ賠償ヲ要求スルコト雖シト信ス義務不履行ニ因リテ通常生スヘキ損害ナル以上ハ必スシモ其損害力當事者間ニ豫見セラレタルト否トハ之ヲ問フヲ要セスト雖モ亦普通ノ觀念ニ於テハ何人モ會得シ得ル所ノ損害タルコトハ勿論ナリ

第四百十六條第二項ハ第一項ノ通則ニ對シテ例外ノ場合ヲ規定セリ即チ普通生スヘキ損害以外ニ於テ特別ノ事情ニ因リテ生シタル損害ト雖モ若シ當事者カ其事情ヲ豫見シ又ハ豫見スルコトヲ得ヘカリシトキハ債權者ハ其賠償ヲ請求スルコトヲ得トアリ前例ニ於テ賃借人カ或商業ヲ營ミテ移轉ノ爲メニ其得意先ヲ失フヘキ特種ノ事情カ當事者間ニ於テ豫見セラレタルコトキハ債務者ハ義務ノ不履行ハ債權者ニ對シテ新克斯クノ損害ヲ被ラシムルコトヲ知リタラシムル其履行ヲ缺キタルモノナレム之カ賠償ノ責任ハ人キ當然ナリ此法文ニ

當事者カ其事情ヲ豫見シ又ハ豫見スルコトヲ得ヘカリシトキハ債權者ノ關係ハ發生シタル時ニ於テ豫見シ若クハ豫見スルコトヲ得ヘカリシコトヲ要スルカ又ハ其後ニ於テ當事者カ豫見シタル場合ト雖モ尙ホ本項ニ依リテ賠償ノ責アルヤ否ヤハ舊民法ニ依リテ財產編第三百八十五條ニ當事者カ合意ノ時ニ豫見シ又ハ豫見スルヲ得ヘカリシ云トアルニ因リ舊民法上ニ於テハ債權發生ノ初ニ於テ豫見シ居リシコトヲ必要トスルモ新民法ハ何等之ニ關スル明文ナキカ故ニ新民法ノ解釋トシテハ債權發生ノ時タルト將タ其後タルトヲ問ハス尙モ當事者カ義務不履行ノ結果新克斯クノ損害ヲ生スルコトヲ豫見知リシトキハ本項ニ依リテ損害賠償ノ責任アルモノト解セサルヘカラス蓋シ損害賠償ハ本契約當時ニ於テ當事者間ニ默認セラレタル附隨ノ約款カレトスル以上ハ契約ノ當時ニ於テ事情ノ豫見ヲ知ラレタルモノニ對シタルニ損害賠償ヲ請求スルコトヲ得ト云フコトハ一應ノ理由アル如キト雖モ爾レ一方其考フルトキハ債務者ハ誠實ニ債務ヲ履行スルノ責ヲ負ヘ又債權者ハ履行當時ニ於テ相當ノ利益ヲ受ケルハ權利ヲ有スルモノナレ故ニ履行ヲ缺キタル

集

自第三章
至第五章

第三章 事務管理

第三章 事務管理

民主精神 革命精神

發生後事務管理ノ開始得テ故件管理繼續中職務タルに至リテ其事務管理タル性質ヲ失ヒ無ク法律行為ニ歸スルヲ得ル此點ハ付テテ其反對スル者アリト雖モ元來事務管理職務ナキ特權アリ以テ其本性上然ルハ故件後事務管理負擔スル者至其場合其當時其本章ノ規定ヲ適用スルキモノニ非スト解セラルヘカラス隨テ管理職務力委任ニ原因スルトキハ其時ヨリ委任ノ規定ヲ適用スルヘキモノニシテ事務管理ノ規定ヲ適用スルヘキモノニ非サルヤ言テ誤タズ

第二 其管理ハ他人ノ爲メニ其事務トシテ爲スコトヲ要ス
更ニ之ヲ細別シテ説明スヘシ

(イ) 他人ノ爲メニスルコトヲ要ス故ニ若シ其事務力單ニ自己ノ爲メニスル管理スルトキハ事務管理ニ非ス例ヘハ他人ニ屬スル家屋ヲ自己ノ物ト爲テ占有ヲ爲シ之ヲ管理スルトキハ本章ノ規定ヲ適用スルヘキモノニ非スシテ占有ノ規定ヲ適用スルヘキモノニ

(ロ) 他人ノ事務ヲ管理スルヲ要ス故ニ他人ノ爲メニスルノ意思アルモ其事務ハ事實

上自己ノモノナルトキハ事務管理ニ非ス然レトモ他人ハ特定シ居ルコトヲ要セス唯自己ノ外ハ本人アルコトヲ管理者ニ於テ知悉スルヲ以テ足ル管理者ハ善意ニテ自己ノ其實他人ノ事務力管理事務力ヲ信シテ管理シ居ルト雖モ本章ノ規定ヲ適用スルヘキモノニ非ス何レハ事務管理ノ要素タル他人ノ爲メニスル意思大テ附存ナクハ不充

第三 其管理ハ本人ノ意思ニ反セサルコトヲ要ス然レトモ其意思ハ抑何人ニ雖モ正當ノ理由オケル他他人ノ權利ヲ行使スルコトヲ得ス若シ夫レ本人ノ意思ニ反シ強ク之ヲ行使セザル是則所謂不法行為ニシテ其爲メ原因ヲ以テ利シタル所ニ對シテ其不當ノ利得ヲ開索スル權利アリ此點ハ場合ニハ不法行為ニ不當利得ノ規定ヲ適用スルニ重キモノニシテ事務管理ハ債權關係發生ノ原因無ク適法ヲ行爲スル故ニ本人ノ意思ニ反セズ其意思ヲ要スルヲ疑フ容レズ然ルモ第七百五條第三項出於管理業者本人ノ意思ニ反シテ管理ヲ爲タル事トキハ云々トアリ由リ見本人ノ意思ニ反スル債務事務管理タルヲ妨ケサルカ加ヘト雖モ第七百條但書出於其管理ニ繼續カ本

義ナル點アルヲ見ルモ明カナリ加之若シ管理行為爲シ債權行使ノ爲メ其利益ヲ得ル者ハ無能力者ナルトモ其行為ハ之ヲ取消スルコトヲ得ルハ其論決然
ルヘカラス果シテ然ラハ本人ハ無能力者ナリ管理セラルコトハ毫不知ラザルカ故
ニ不知ノ間ニ損害ヲ被ルコトアルベキナリ何トナレハ取消ノ結果ハ現ニ利
ハ限度ニ於テノミ償還スルニ過キサレバナリ但無能力者タル管理者カ其管理
中法律行為ヲ爲シタルトキハ其行為ニ關シテハ一般ノ規定ニ從ヒ之ヲ取消
爲シ得ヘキハ當然ノ事理ナリトモ其管理力必要ナルトキニ非スト雖モ本章ノ規定
以上ノ條件ヲ具備スルトモ其管理力必要ナルトキニ非スト雖モ本章ノ規定
ニ從ヒ事務管理タルモノトス以下管理者ノ義務ニ付キ説明セザルモ其内容
第一 管理ノ義務
事務ノ管理ヲ始メタル者ハ其事務ノ性質ニ從ヒ最モ本人ノ利益ニ適スヘキ方
法ニ依リテ管理セザルベカラズ事務ノ性質ニ從ヒ本人ノ利益ニ適スルトモ其
事務ヲ遂行スルニ當リ當時ノ種種ノ狀態ニ顧ミ最モ本人ノ利益ニ適スル手段
ヲ採ラサルヘカラスルノ意ニ外ナラス例ヘバ其事務ノ性質カ財産ノ増殖ヲ目

的トスルモノカ場合ノ如キハ或ルハ其利益多キ方法ニ從ヒ其管理ヲ爲スル
ルヘカラスアルカ如キ又珍貴ヲ集ムル目的ノ書箱館アルトキハ金銀上ノ
利益ヲ顧ミス成ルヘカ珍貴ヲ求ムルモノトモ其利益ノ如キ又例ヘバ本
カ馬ヲ有スル場合ニ於テ其本人カ駝馬ヲ求ムルモノトモ其利益ノ如キ又例ヘバ本
タルヘカラスアルモノモ之ヲ如何ニ利益ナルモノトモ駝馬駝馬等ニ供用スヘカラス
カ如シ以上ノ義務ハ管理者カ本人ノ意思ヲ知ラズアルトモ又ハ之ヲ推知スルコ
トヲ得サルトモニ於テノ義務ナリトモ故ニ若シ本人カ意思ヲ知ラズアルトモ又
ハ推知スルコトヲ得ヘキトモ其意思ニ從ヒテ管理ヲ爲スルコトヲ要スルモノ
ヲ換タス蓋シ他人ノ事務ニ干渉ヲ爲スル許ス所以ニテモ其本人カ利益ノ
爲メナルニ原因ス故ニ其利益ニ適スルモノモ其事務管理ヲ認メ其利益ノ
スヘカレバナリ故ニ其利益ニ適スルモノモ其事務管理ヲ認メ其利益ノ
第二 損害賠償ノ義務 本人カ意思ヲ知ラズアルトモ又ハ之ヲ推知スルコ
トヲ得サルトモ又ハ之ヲ推知スルコトヲ得サルトモ又ハ之ヲ推知スルコ
凡シ何人カ損害ヲ被ルモノモ其意思ヲ知ラズアルトモ又ハ之ヲ推知スルコ
賠償ノ責任ヲ負擔スルモノモ其意思ヲ知ラズアルトモ又ハ之ヲ推知スルコ

且之ヲ始メテ第六百九十七條ニ因リ管理爲スハ義務大貨ノ編ヤモ
於テ既ニ此義務ヲ以テ以上ハ蓋シ之ヲ撤棄スルハ許サズ猶夫以テ之ヲ撤棄ス
ルハ於テ本人ノ爲メニ不利ナルコト多クレハナリ何トナレハ若シ其管理ヲ
爲ササルニ於テ當初ヨリ他人ガ適當ノ管理ヲ爲シタルヘキニ其管理ヲ始メ
テ力故ニ他人ノ管理ヲ始メテ力ナリ而シテ其他人ノ能ク倒所等ヲ轉シテ
方カ管理ヲ撤棄スル當時ニ於テハ其場所在テ其本人ノ能ク倒所等ヲ轉シテ
然レトモ素ト管理者ノ意思タルキ永久ニ其管理ヲ爲スニ非テ現實管理者ガ不
ラシカ故ニ當分ノ内之ヲ管理スルノ意思タルキハ其本人ノ能ク倒所等ヲ轉シテ
アル管理ヲ爲スヘキ者現出スルニ至ラタル之ヲ繼續セシムル必要大故故ニ其
繼續ハ本人又ハ相續人若クハ法定代理人カ管理ヲ爲シ得ルニ至ルニ非テ其
限界トス然レトモ其管理ノ繼續カ本人ニ不利ナルトキハ其管理ヲ繼續セシム
ヘキモノニ非ズ是レ第六百九十七條ノ本旨ナリトス又本人ノ意思ニ反スルト
キハ本人ニ於テ不利ナルモノト認ムヘキノミナラス其意思ニ反シテハ所謂事
務管理存セサルヲ以テ繼續スル必要セサルヲ明シテ聯合ニ大ニ致セテ

第五 報告ノ義務 遺言管理ノ義務ハ其事務報告ノ義務ニ在リ
管理ノ事務處理ノ狀況ヲ報告シ又管理ノ止ラタル時ハ其類末ノ報告
セサルヘカラス此義務ハ本人ヲ限リ管理ノ方法ヲ指定シ又管理ヲ止ラ
ル又ハ其終了シタル時ハ爾後ノ權利義務ヲ明シニ其本人ノ必要ノ生シ
レ第六百四十五條ヲ準用スル所以ナリ(第七〇一條) 遺言管理ノ義務ハ其
第六 引渡ノ義務 遺言管理ノ義務ハ其事務報告ノ義務ニ在リ又其事務
受取タル金銀其他ノ物件ヲ本人ニ引渡ササルヘカラス(第七〇一條第六四六
條第一項) 本人ノ引渡スルモノハ其事務報告ノ義務ニ在リ又其事務
第七 權利移轉ノ義務 遺言管理ノ義務ハ其事務報告ノ義務ニ在リ又其事務

本人ノ爲メニ自己ノ名ニ於テ得タル權利ハ之ヲ本人ニ移轉スヘキハ當然ナリ
尤モ管理人カ本人ノ爲メニ取得タル權利ハ素來本人ニ歸屬スルモノナリ其
管理者ニ屬スルモノニ非ズ唯名義カ管理者ノ名義タルヲ著シ此等ノ解キ
サルニ於テハ即チ實體上ノ權利ハ管理者ニ屬シ危險負擔モ亦管理者ニ存ス
謂ハサルヘカラス(第七〇一條) 遺言管理ノ義務ハ其事務報告ノ義務ニ在リ又其事務

オハヘカラニ或ハ曰ハシ管理者ハ自己ノ名ヲ用ヒタル爲メ故ニ負擔ヲ免レ得ズ
ルヘシト然レモ場合ニ因リテハ管理者カ自己ノ名ヲ用ヅルハ非ザレバ之ヲ
得ルコト能ハサルモトアリ例シテ本人不在ノ場合ニ於テ管理者ハ名義ヲ以テ
スル賣買ノ如シ此ノ如キ場合ニ管理人ハ危険ヲ負擔シタルヲ失當ナラ
ズ言フ埃タス(第七〇一條第六四六條第三項ニ本人ニ對シテハ當然ナリ
第八 利息支拂及ヒ損害賠償ノ義務

管理者カ本人ニ引渡スヘキ金額ヲ自己ノ爲メニ消費シタルトキハ其消費シタ
ル日以後ノ利息ヲ拂フコトヲ要シ尙ホ損害アリタルトキハ之ヲ賠償シタルハ
カラス是レ當然ノ事理ナリトス凡ソ金錢ヲ目的トスル債務ノ不履行ニ關スル
損害賠償額ハ約定利率ヲ定ナキ場合ハ法定利率ニ依ル額ノ外支拂義務ナキコ
トハ第四百十八條ノ規定スル所ナリ然レモ管理者ニ其利息以外ニ損害ヲ支拂
ハシタル所以ノモノハ如何ナル理由ニ因リテ曰フ是レ畢竟本人ノ利益ヲ圖ル
規定ニ外ナラス加之元來自己ノ爲メニ金錢消費シタルカ如キハ最終本人ノ利
益ニ通スヘキ管理方法ト謂フヘカラサルノミナラス其事務管理者タル義務ニ

違背スルノ甚シキモノナレバナリ(第七〇一條第六四七條)トモ云フ

次ニ本人ノ義務ニ付テ説明スルハ(一)利益ノ爲メニ管理シタルモノハ其利益ノ
抑モ事務管理ハ管理者自ラ進メテ抑テ義務ナクシテ他人ノ事務ヲ管理シタル
モノナルカ故ニ本人ハ何等ノ義務ヲ負擔セズルヲ可ナル如シ然レモ若シ
本人ヲシテ何等ノ義務ヲ負擔セシメタルトキハ本人ハ不當ノ利得ヲ爲ス事匪
ヘク又他方ニ於テハ事務管理ハ法律ノ適法行為ナルカ故ニ其範圍ヲ越セザル
上ハ本人モ亦其行為ノ正當ナルモノト認メサルハカラス是レ第七二條ノ規
定アル所以ナリ左ニ之ヲ説明スルハ(一)管理費(二)費用(三)必要費トス
第一 費用 償還ノ義務ニ關シテ管理費ハ管理費トシテ管理費トシテ管理
費用ハ之ヲ分チテ三種トス(一)必要費(二)利益費(三)徒元費即チ是ナリ必要費トハ
物ノ保存ニ缺クヘカラサル費用ヲ謂フ有利益費ハ物ヲ保存止必要費トハ物
ナルニ非サルモノ之ニ因リテ價格ヲ増殖スル費用ヲ謂フ即チ經濟上ニ於テ物ノ
地位ヲ高クスル費用ニ外ナリ徒元費ハ利益費ノ費用ニシテ單に嗜好ニ
適シ其快樂ヲ増スニ過キサルモノ故ニ單に範圍ノ外ニ其利益ヲ變更

調ノ衣服ヲ直チニ仕立直シ染直ス等ノ費用ハ徒冗費ニ屬シ土地ヲ利用シ沼澤ヲ田ニ變シ山林ヲ開墾スルカ如キ費用ハ有益費ニ屬シ而シテ本人ハ負擔スルキ費用ハ右ノ中有益ナル費用即チ必要費ノ或種類及有益費ナラハ本條ニ單ニ有益ナル費用トアルヲ以テ必要費ニ之ニ包含セザルカ如キ事雖モ必要費ハ普通有益ナル費用ナルコト疑ハキヲ以テ固ヨリ之ヲ除外スルヲ理ナクハナラス所謂本條ノ有益ナル費用トハ有益費ノミヲ指シタルモノニ非ナルハ有益費ト云ハスシテ有益ナル費用トアルニ依リテ明カナリ隨テ既ニ必要費ニシテ有益ナル以上ノ之ヲ包含セシムルハ當然ナリ然レトモ必要費ハ常ニ必スモ有益ナルモノト謂フヘカラス例ヘハ朽敗ニ屬シ之ヲ修繕スルモ其保存費ト價還シ得サル如キ場合ヲ如シ此等ノ場合ニ於テハ本條ニ所謂有益ナル費用ト謂フヘカラサレハ價還ノ義務ナキヤ言フ族タス然レトモ其有益ナルヤ否ハ現ニ價還ノ時ニ於テ有益ノ事實ヲ存スルヲ要セズ費用ヲ支出シタリキハ於テ有益ナルヘキヲ以テ足ル故ニ有益トシテ建築シタル家屋カ後ニ至リ天災ニ因リテ燒失シタリトスルモ其建築費ハ有益ナル費用ナラザラ妨ケス

而シテ本條ニ所謂費用トスルモノ金錢上ノ支出額ニ限リテ或ハ其他ノ出捐又而包含スルヤ或ハ又勢力ヲ供給スルモ包含スルモノカ夫テ其詳ヲ左ニ之ヲ陳セン
費用ナル語ハ日本固有ノ意義ニ於テハ金錢及モノ物件ノ消費額ニ其指稱シテ給付ノ如キハ之ニ包含セシメザリキ然レトモ法律上現今用スルハ其費用ナル文字ハ佛語ニテ之ヲ「デマン」ト謂ヒ而シテ「デマン」ノ文字其來レハ「モ」ノ如ク然リ而シテ「デマン」ノ意義ハ廣ク損失ノ開大ニ以テ其勢力ヲ給シ報酬ヲ得サルトスル則チ管理人ノ損失ヲ以テ之ヲ廣義ニ所謂費用ナリト謂ハサルモ其カヲ其カカシ然レトモ本條ニ費用ハ此ノ如ク廣義ニ費用ニ非ズ即チ勢力ハ包含セザルモノト斷定セザルヘカ夫テ何トカハ若シ費用ヲ廣義ニ解シ勢力ヲ包含セシメザルトモ管理人ハ事務ノ管理ニ依リ報酬ヲ求メ得ヘキ結果ニ至ルモノ委任ニ基テ管理人ハ普通報酬ヲ求メ得ル所ニ其委任ナキ事務管理ニ於テ知テ報酬ヲ求メ得ルカ如キ不權衡ヲ見ルニ至ル患レ予カ狹義ニ解セザルヘカ云々云々所以ナリ管理人ハ其工事ニ報酬受ルハ其管理人カ大正ナリ場合ニ自ラ管理上土地ニ家屋ヲ建設スルハ其利ヲ得ル債權本

九、爲夫夫自其建築ノ勞而服務於此場合ニ據其手間賃ノ費用トシテ償還率
 之ニ賃金ヲ支拂給ふルモノト然其何則カハ若シ他人ヲシテ其工事ヲ請負ハシメ
 トキハ其手間賃ノ償還ヲ幾多シキモ其可大抵其手間賃ノ非理者亦甚シ其請負
 手間賃ノカスル既其事務ニシテ有益ナル以テハ其事務ヲ本入ニ於テ認ムベキ
 ハ前既述タル如シ其事務又是認ムルニ於テハ其費用ノ負擔ハ其否認
 ルノ理アリシヤ又之ヲ解釋上ヨリ認ムルモ同論決スルモノト得何則カ
 レ元來本人ヲ對シテ報酬請求得テ其管理行為自體ニ對シテ然ル本
 同場合ニ於テ其勞力ハ管理行為其モスニ非スニ屬備若シ其請負以外其
 ス唯之ヲ一身上ニ併有スルカ故ニ疑アル之ヲ二人ニ分屬セシムルモ其
 同物ニ非サルニト明カナリ而シテ本問ノ場合ニ於テ其管理行為ハ管理費
 價格ニ於テ王事ニ注文ヲ爲シ大工タル價格ニ於テ其注文應シ勞務ヲ給與
 而シテ現實賃金ノ授受ニキリ簡易ヲ手續ニ因リ之ヲ授受スルモノト認ム得
 而シテ其費用ヲ支拂シ給ふ上同一歸スルヲ以テ之カ償還ヲ求ムル

變更シタルカ爲メ終ニ大審院ノ判例ヲ見ルコトヲ得サキ三十五年二月二十
 五日決定又舊商法草案理由書第二百二十八頁ヲ見ルニ起草者ハ或ハ時價ヲ低
 キ價格ヲ附スルモノモ禁セシム欲シタルモノヲ如シハ舊商法草案ニ附屬
 財産目録調製ノ時ノ價格ニ依リテ財産ヲ評價スルコト其株式會社ノ如キモ
 特別規定ナキヲ以テ當然其適用アルモノトス前ニ述ベタルカ如ク予ノ信スル
 所ニ依レハ時價ヨリモ低キ價格ヲ附スルコトハ不當ニ非サルモ時價ニ從セテ
 記載スルハ勿論正當ナル所ナリ故ニ株式會社カ財産ノ價格ノ騰貴ニ乘シテ其
 騰貴額ヲ利益ニ算入シテ之ヲ配當スルハ勿論適法ナル所ナリトス然レトモ此
 ノ如キハ會社ノ基礎ヲ危クスルモノニシテ株主ヲシテ物價ノ高低ニ依リ常ニ
 不安ノ地位ニ立タシムルモノナルヲ以テ近時株式會社ノ財産目録ニ付テハ悉
 ク時價ニ從ヒテ評價スルコトトモス其最高額ニ制限ヲ加ヘ例外規定ヲ設ケン
 トスルノ說アリ獨逸商法ノ如キモ第二百六十四條ニ於テ株式會社ニ付テ評價
 ノ最高限度ヲ定メ買入價格ヲ越スルコトヲ得スト爲シ以テ其第四十條ノ規定
 ノ例外ト爲セリ又現ニ我國法ニ於テハ私設鐵道法第二十條ニ基テ發セラレ

有價證券	同	準備金	同
貸付	同	別途積立金	同
預金	同	利益	同
現金	同	準備金	同
合計	金	別途積立金	同
		配當金	同
		賞與金	同
		後期繰越金	同
合計	金		

尚本明治三十二年大藏省令第二十四號銀行條例施行細則明治二十六年十月二十八日商工局長通知取引所諸報告書式中ノ財産目錄及ヒ貸借對照表ノ様式ハ其ニ舊式ニシテ新商法ノ規定ニ依レハ適當ナリト謂ヒ難シ明治三十三年四月農商務省令第十五號保險業法施行規則ノ様式ハ新商法ノ規定ニ適合スルモノナリ

第九章 商業使用人

前ニ商人ノ章ニ於テ述ベタルカ如ク商人トハ自己ノ名ヲ以テ商行爲ヲ爲スヲ業トスル者ヲ謂フモノニシテ必スシモ自身親シク手ヲ下シテ業務ヲ執行スルコトヲ要セサルノミナラズ總令業務ヲ執行スルモノナルモ萬般ノ行爲ヲ一人ニテ爲スハ事實上不能ニ屬ス故ニ於テカ商人ノ營業ニハ各種ノ補助人ヲ要ス廣義ノ補助人ハ學者更ニ之ヲ分チテ獨立ノ補助人及狹義ノ補助人トノ二ト爲ス者アリ獨立ノ補助人トハ所謂補助的ノ商業ヲ營ム所ノ獨立ノ商人例ヘハ仲立人間展代理商運送取扱人運送人倉庫營業者及ヒ保險業者ノ如キヲ謂フモノニシテ狹義ノ補助人トハ商人ノ營業上ノ機關ニシテ其營業ヲ補助スル者例ヘハ支配人番頭手代其他ノ商業使用人及ヒ合名會社合資會社株式合資會社代表社員並ニ株式會社之取締役ノ如キ者ヲ謂フノ辭商人ヤハ商業使用人ト謂フ我商法ハ總則編第六章ニ於テ商業使用人ノ規定ヲ爲シ第七章ニ代理商ヲ規定セリ代理商以外ノ所謂獨立ノ補助人ニ付テハ第三編第五章以下ニ之ヲ規定ス

ヲ蓋シ代理商ナル者其規定ノ商人ノ爲メ平生其營業ヲ專顧スル商行爲
代理又ハ媒介ヲ爲ス者ナル所以獨立ノ商人ナラズニ拘テ商人ノ機關
ナル點ヨリ觀察シテ之ヲ總則編ニ規定シ扶養ノ補助人ナル商業使用人ト伍セ
シタルモ又ニ其其他ノ獨立ノ補助人ナル者其行爲ハ總則編ニ觀察シテ之
ヲ商行爲編中ニ規定セル商人ナラズ信ス獨逸商法ハ如キ仲立典ヲモ總則編
中ニ規定セリ即チ代理商ノ次章ニ之ヲ規定セルナリ是故商人ノ機關ナル點ヨ
リ觀察シタルモノナリ又會社ノ代表社員又ハ取締役等ヲ會社編中ニ規定シテ
之ヲ立法上當然ノ方法ナラズト信ス予ハ諸義ヲ亦法典ノ順序ニ依リ本章ニ於テ
商業使用人ヲ説明シ次章ニ於テ代理商ヲ説明シ以テ商人ノ營業ヲ補助スル機
關ノ性質ヲ明カニセント欲ス今章ニ於テハ外國法ハ商業使用人ノ規定ニ存セシ悉ク之
ヲ民法ニ譲リタリ和蘭白耳義等亦之ニ倣フ伊太利商法ハ商業使用人カ主人ニ
代理スル點ヨリ之ヲ代理及ヒ取次ナル章中ニ規定シ又西班牙商法ハ取次ニ付
テ自己ノ名ヲ以テスルト他人ノ名ヲ以テスルトト問ハス商業使用人ノ代理ノ

場合ヲモ取次ノ章中ニ規定シ其一節ヲ爲セリ獨逸商法ハ總則編第五章ヲ支配
權及ヒ商業代理權ト題シ專ラ代理權ノ方面ヨリ之ヲ觀察シ支配人及ヒ商人ノ
其他ノ代理人ニ關スル規定ヲ爲シ第六章ヲ商業使用人及ヒ商業見習者ト題シ
此等ノ勞務者ニ關スル規定ヲ爲シ第七章ノ規定ハ各異ナル方面ヨリ之
ヲ觀察シテ規定ヲ爲シタルモノニシテ二者互ニ相妨クセルモノニ非ス即チ支配
人其他ノ代理人ハ多クノ場合ニ於テハ同時ニ商業使用人又ハ商業見習者ナリ
然レトモ偶々使用人ニ非スシテ代理權ヲ有スル例ハ商人ノ妻友人等
カ代理權ヲ與ヘラレタル場合ノ如キ即チ是ナリ獨逸帝國高等商事裁判所判決
例集第一卷第二九九頁之ニ反シテ商業使用人又ハ商業見習者ニシテ單ニ事實
上ノ事務ヲ執ルモノニシテ代理權ヲ有セザルモノアリ獨逸舊商法匈牙利商法
又之ハ略同様ニシテ總則編第五章第六章ニ別ニ之ヲ規定セシカ唯第五章ハ
「支配人及ヒ商業代理人」ト名稱ヲ付シテ點ニ於テ之ト異ナレルモノニ六六條
我舊商法ハ半ハ獨逸舊商法ニ倣ヒ第一編第五章ニ之ヲ規定ヲ爲シ代務人及ヒ
商業使用人ノ名稱ヲ付シテ代務人ト商業使用人トヲ區別シ然レバ新商法ニ

謂フ依ニ第一ニ商人ニ雇傭セラレル者タルコトヲ要スルヲ以テ經營支配人又ハ番頭手代等ノ名ヲ有スル商人ニ雇傭セラレサル者ハ商業使用人ト謂フコトヲ得ス故ニ第二十九條ニハ商人ハ支配人ヲ選任シ云云ト規定シ第三十三條ニモ商人ハ番頭又ハ手代ヲ選任シ云云ト規定セリ第二ニ商人ト雇傭關係ニ立チ之ニ隸屬スル者ヲラサルベカラズ故ニ代理商ノ如キ自己ヲ營業トシテ商人ノ營業ヲ補助スル所ノ所謂獨立ノ補助人ハ勿論商業使用人ト謂フコトヲ得ス又ハ妻カ夫ノ商業ヲ補助スルカ後見人カ被後見人ノ爲メニ商業ヲ營ムカ如キ場合ニ於テハ雇傭關係ナキヲ以テ之ヲ商業使用人ト謂フコトヲ得ス又國家カ商行爲ヲ爲スヲ業トスル場合ニ於テ之カ爲メニ使用スル官吏ノ如キハ國家カ之ヲ任命スル行爲ハ私法上ノ雇傭契約ト謂フヲ得ナルヲ以テ商業使用人ニ非ス又株式會社ノ取締役ト會社トノ關係ハ予テ信スル所又獨逸多數學者ノ唱フル所ニ依レハ委任及ヒ雇傭ノ併合スル一種ノ關係ニシテ株主總會ニ於ケル選舉ハ之カ關係ヲ創設スル爲メニスル契約ヲ申込ニ外ナラズシテ被選舉者カ承諾ヲ爲スニ因リ契約ハ成立スルモノナリ故ニ此點ニ付テハ商業使用人ノ場合

ト異ナル所ナキカ如シト雖モ取締役ナル者ハ會社ノ業務ヲ執行スル所ノ法定機關ニシテ會社ニ隸屬スル所ノ使用人ト其性質ハ異ニス然レドモ會社ト取締役トノ關係ニ付テハ大審院最近ノ判決ハ株主總會ニ於ケル取締役選任決議ノ效力ハ委任關係ヲ生スルモノニ非ストセリ(三十六年三月十四日大審院第一民事部判決參照)第三ニ商業使用人ハ商業上ノ勞務ニ服スルモノタルコトヲ要ス何ヲカ商業上ノ勞務ト謂フヤニ付テハ獨逸學者間ニ爭アル所ナルガ多數ノ說ハ商法上ノ商人ノ意義ニ依リテ之ヲ解スヘキモノニ非スシテ從來ノ用法ニ依リテ之ヲ解スヘキモノトセリ故ニ例ヘハ商法上ヨリ觀ルトキハ製造又ハ加工ニ關スル各種ノ工場主ノ如キハ商人ナリト雖モ製造又ハ加工ニ關スル業務ニ從事スル彼ノ職工ノ如キハ商業上ノ勞務ニ服スルモノニ非スト論セリ(ペーレンド「ハーン」フェルデルンドルフ「ローザック」スタウプ反對「アール」ウエント)我商法ニ於テモ商業使用人ニ關シ特ニ一般的ノ定義ヲ與ヘザルヲ以テ隨テ予ノ下シタル定義ノ如キモ固ヨリ一私見ニ止マルモノナリト雖モ職工、人足等ノ如キ技術上ノ勞務ニ服スル者又ハ奴婢ノ如キ家事上ノ勞務ニ服スル者

又ハ學理ノ顧問相談役ノ如キ其他化學上美術上ノ高尚ナル勞務ニ服スル者ノ如キハ商業使用人ニ非スト論スルヲ以テ常識ニ適シタルモノト謂フコトヲ得ヘシ然レトモ此等ノ勞務ニ服スル者カ同時ニ商業上ノ勞務ニ服シ同時ニ商業使用人タルコトヲ得ヘキハ言フ埃タサルナリ

商業使用人ハ其名稱ヨリ別ツトキハ我商法ニ依レハ支配人番頭手代及ヒ其他ノ使用人ノ四種ト爲スコトヲ得又代理權ノ有無ヨリ別ツトキハ一ハ代理權即チ主人ニ代リテ法律行爲ヲ爲ス權限ヲ有スル者ニシテ支配人番頭手代之ニ屬ス他ハ代理權ヲ有セサル者ニシテ支配人番頭及ヒ手代ニ非サル使用人ハ之ニ屬スル者ト推定セラルルモノナリ代理權ヲ有スル使用人ハ更ニ法律カ其代理權ノ範圍ヲ定メアルヤ否ヤニ依リテ之ヲ別ツトキハ支配人ト番頭手代トノ二ナリ支配人ノ代理權ノ範圍ハ法定ノモノナルヲ以テ之ヲ制限スルモ之ヲ以テ善意ノ第三者ニ對抗スルコトヲ得ス之ニ反シテ番頭手代ノ代理權ノ範圍ハ主人カ任意ニ定ムル所ニ從フモノナルヲ以テ此二者ノ代理權ハ性質上ノ差異アルモノトス法律ハ尙ホ此二者ノ間ニ區別ヲ爲シ支配人ノ選任及ヒ解任ニ付テ

ハ主人ニ之ヲ登記スヘキコトヲ命スト雖モ番頭手代及ヒ其他ノ使用人ニ付テハ登記スヘキコトヲ定メスハ其種類ヲ說明シタリシカ進ミテ各種以上ヲ以テ商業使用人ノ意義ヲ定メ置ニ其種類ヲ說明シタリシカ進ミテ各種ノ商業使用人ニ付テ說明スルニ先テ一般ニ通スル商業使用人ト主人トノ關係ニ付テ一言センニ前ニ述ヘタル如ク商業使用人ハ商業上ノ勞務ニ服スル所ノ勞務者ニシテ主人ト雇傭關係ニ立ツ者ナリ故ニ雇傭關係ノ設定終了ノ原因又ハ主人ト商業使用人間ノ權利義務ノ關係ニ至リテハ悉ク民法ノ雇傭ニ關スル規定ニ從フヘキモノトス故ニ新商法ハ舊商法第五十九條以下第六十五條ノ規定ヲ削除シ第三十五條ニ於テ本章ノ規定ハ主人ト商業使用人トノ間ニ生スル雇傭關係ニ付キ民法ノ規定ヲ適用スルコトヲ妨ケスト規定シタリ而シテ又一方ニ於テ商業使用人中ニ代理權ヲ有スル者アリテ代理權授與ハ單獨行爲ニ依リテ爲スコトヲ得ルヤ否ヤハ立法論トシテ議論アル所ナレトモ解釋論トシテハ我立法者ハ佛蘭西學者ノ套說ヲ容レ法定代理人ノ外ハ唯委任契約ニ因ル代理ヲ認メタルモノノ如シ稱博士民法要義第一卷第10九條是レ委任キ代理

トノ區別ヲ認メサル通弊ニ陥リタル所ニシテ立法上大ニ批難スベキモノナリ
ルモ解釋上爭ハレザル所ナリト信ス故ニ代理權固有スル商業使用人ト主人ト
ノ間ニ委任關係ナキコト能ハス而シテ此委任關係ニ付テモ商法及ヒ商慣習法
ニ特別ノ規定ナキ限ハ民法ノ委任ヲ規定ヲ適用スベキモノトス故ニ新商法ハ
舊商法ノ代務人ニ關スル第四十三條、第四十六條ノ規定ヲ削除セリ故ニ予ノ講
義モ亦主人ト商業使用人トノ雇傭及ヒ委任ノ一般關係ニ付テハ茲ニ論究ス
尙ホ主人又ハ商業使用人ト第三者トノ關係例ハ代理人ノ行爲ハ本人ニ對シ
テ如何ナル效力アルヤ代理人ハ代理人トシテ示スコトヲ要スルモ代理權
ヲ有セザル者カ他人ノ代理人トシテ爲シタル法律行爲ノ效力如何等ノ問題即
チ代理關係ニ關シテハ民法ノ代理ノ規定、商法第二百六十六條、第二百六十八條
ノ規定等ニ從フヘキモノナルヲ以テ之カ說明ヲ爲サズ唯本章ノ規定ノミニ付
テ之ヲ説明セントス故ニ諸子ニ於テ代理委任等ニ關スル民法及ヒ商法ノ一般
規定ヲ參照シテ商業使用人ノ觀念ヲ知得セラレシコトヲ望ム

定ムルニモ其手帳ハ非難事將年終結算百二十日以前送附百二十四日以前送附
 總商法於テハ以上述べタルモノハ外何モ支配人ハ自己ノ名義ニ支配人タル
 コトヲ示スヘキ文字トモ主座者商號無附記セシ署名各ハキコトヲ規定ス
 モ同商法第五一條我商法ハ此ノ如キ規定ヲ認ムルコトナシ然レトモ我商法ニ
 於テモ支配人ハ必ズ支配人ナル名稱ヲ附スヘキコトヲ要スルヤ否ヤハ一ノ問
 題ナリ予テ信スル所ニ依レバ支配人又ハ支配役ト稱スル者ハ之ヲ支配人ト看
 做シテ可ナラント信ス何トナレバ商法施行法第十九條ニ依レバ「商法施行前
 リ支配人又ハ支配役ト稱スル者カ商法第三十條ニ定メタル權限ヲ有セタルト
 キハ主人ハ商法施行前日ヨリ三個月内ニ其名稱ヲ改ムルコトヲ要ス至ハ前
 項ノ期間内ニ支配人又ハ支配役ノ名稱ヲ改メナリシトキハ其者ハ商法第三十
 條ニ定メタル權限ヲ有スルモノト看做ス」規定スルヲ以テ之ヲ推及シテ論ス
 ルコトヲ得レバナリ之ニ反シテ支配人又ハ支配役ナル名稱ヲ用ヒタルヲ以テ
 直チニ支配人ニ非スト速斷スルコトヲ得サルベク即チ第三十條ノ代理權ヲ授
 與セラルタル者ハ縱令支配人ナル名稱ヲ用ヒタル場合ニ於テモ支配人タルコ

トヲ妨ケサルヘシ切言スレバ支配人ノ名稱ヲ以テ選任セラルタル者モモ支配
 人ハ代理權ヲ授與セラルタル者モモ支配人ト爲ルモノナラント信ス志田博士曰
 本商法論同書第一卷第一七五頁及ヒ志田氏商法要義同書第一卷第一八〇頁乃
 至第一八二頁ニ依レバ支配人ヲ選任スルニ當リテハ必ズモ支配人又ハ支配
 役ナル名稱ヲ以テスルヲ要セザレトモ支配ナル文字ハ必ズ之ヲ用フルヲ要
 要ス例ヘハ何何ノ營業ヲ支配セシムト謂フカ如シト論者カ是レ支配人ヲ選
 任ハ必ズシモ明示ナルヲ要セス默示ナルヲ妨ケズ(志田氏商法要義第一卷第一
 八四頁)曰フニ矛盾セサルハキヤヲ駭ハサルヲ得ヌ要スルモ支配人ハ代理權
 ヲ授與セラレタル者ナル以上ハ支配ナル文字ヲ用ヒタル場合ニ於テモ支配人
 タルコトヲ妨ケサルヘシ唯支配人ノ代理權ナルモノハ其範圍廣汎ナルヲ要サ
 ラズシテ之ヲ制限スルコトヲ得サル所ノ特質ヲ有スルモノナルヲ以テ單ニ支
 配人ノ代理權ト範圍ヲ同シウスルノミノ點ヲ以テ支配人ノ代理權ナリト速斷
 スルコトヲ得サルモノナルコトニ注意セザルヘキ事ス

第二 支配人ノ選任及ヒ終任
 主座者ハ同商法施行法第十九條ニ依リテ「商法施行前日ヨリ三個月以前送附
 百二十四日以前送附」

前ニ述ヘタル如ク商業使用人ト主人トノ關係ハ商法及ヒ民法ノ雇傭委任及ヒ代理ノ規定ニ依リ定メラルモノナリ故ニ支配人ノ選任及ヒ終任ノ原因ニ至リテモ同シク此等ノ規定ニ從フヘキモノトシ獨逸商法及ヒ在リタル支配權ノ默示ノ授與ヲ認ムヘキヤ否ヤニ付テハ、レイン等ハ之ヲ認ムヘシト曰ヒ、ウエント、フエルデル、シドルフ等ハ之ヲ認ムヘカラスト主張シ學說ニ定セザリシカ新商法第四十八條ニハ明文ヲ以テ明示ノ授與ニ限ルヘキモノト主張シ我舊商法第四十二條ニモ亦明示ノ委託ヲ以テスルキコトヲ規定ス然レトモ新商法ニハ特ニ此ノ如キ規定ナキヲ以テ民法一般ノ原則ニ從ヒ默示ノ場合ヲモ認メタルモノト解スルコトヲ得ヘシト信ス又終任ノ原因ニ至リテ舊商法第四十三條、獨逸商法第五十二條ノ如キハ何時ニテモ主人ハ之ヲ解任シ支配人ハ之ヲ辭任スルコトヲ得ヘキ旨ヲ定メ又支配人ノ代理權ハ主人ノ死亡ニ因リテ消滅セサルコトヲ規定セシカ是レ民法ノ第六百五十一條及ヒ商法第二百六十八條ノ規定ニ依リ當然ナルヲ以テ新商法ハ特ニ之ヲ規定ヲ爲サズ唯第三十一條ニハ支配人ノ選任及ヒ代理權ノ消滅ハ之ヲ置キタル本店又ハ支店ノ所在

地ニ於テ主人之ヲ登記セラルト雖モ此登記ノ效力ニ付テハ既ニ商業登記ノ章ニ於テ之ヲ述ヘタルヲ以テ茲ニ再說セズ
支配人ノ選任及ヒ終任ニ付テハ一言注意スヘキハ支配人ノ選任及ヒ解任ハ一箇ノ商人ニ在リテハ主人之ヲ爲スヘキコト勿論ナリト雖モ會社ニ於テハ第五十七條、第一百十條、第一百六十九條及ヒ第二百四十三條ノ規定アリテ特ニ之ヲ重ニセリ蓋シ支配人ノ權限ハ頗ル廣汎ナルモノナリヲ以テ其選任及ヒ解任モ隨テ重大ナル事項ナルヲ以テ其權限ハ自前ノハチヒリテ更ニ廣クシテ設ケテ第三ニ支配人ノ權限ノ又ハ辭任ノ手續ハ又ハ特ニ之ヲ規定スルモノナリ
(一) 支配人ノ代理權ノ範圍ハ法律ヲ以テ之ヲ定メ之ニ加ヘタル制限ハ之ヲ以テ善意ノ第三者ニ對抗スルコトヲ得ナルモノナリ(第三〇條、第三項、獨逸商法第五十條、同舊商法第四十三條、何種利商法第三十九條)支配人ノ代理權ニ加ヘタル制限ハ第三者ニ對シテハ絕對的ニ效力ヲ有セタルコトヲ規定シテ下雖モ我新舊商法ニ於テハ其善意ノ第三者ニ對シテハ其效力ヲ減殺シタルモノナリ
舊法第四百二十三條亦之ト同シトス然レトモ我舊法ニ於テハ支配人ノ代理權

加ヘタル制限ヲ登記スベキコトヲ認メタルハ非テ即チ登記スル事項ニ法律ニ限定シ支配人ノ代理權ニ加ヘタル制限ハ登記スベキ事項ニ非タル以テ縱令過テテ登記スルコトヲ廢モ何等効力ヲ生ズルモノニ非ズ而シテ支配人ノ代理權ニ加ヘタル制限トモ或ハ營業上ノ特定事項ニ關シテ代理權ヲ限ルト定ムルカ或ハ其代理權ニ條件ヲ附スルカ或ハ期限ヲ附シタルカ如キ諸制限ヲ謂フ獨逸商法第五十條ニ於テハ此制限ノ場合ヲ明示シ特定ノ行為若シハ特定ノ種類ノ行為ニ付テシメ又ハ特定ノ狀態ノ下ニ於テノミ又ハ特定ノ時ニ於テノミ又ハ特定ノ處ニ於テシテ支配權ヲ行使スヘキコトヲ定ムルヲ謂フト規定セリ茲ニ注意スベキハ支配人ノ代理權ニ加ヘタル制限ハ民法ニ所謂代理關係ニ於テノ効力アルモノナル主ト是ナリ故ニ支配人ハ主人ノ定メタル所ノ制限ニ違反スルコト無ク主人ハ支配人ヲ解任スルカ又ハ之ニ向テ損害賠償ヲ請求スルコトを得ルルハ勿論ナリ又ハ之ニ對シテ茲ニ再論ス

支配人ノ代理權ハ以上述べタル如ク法律ニ依リ其範圍ヲ決定シ有效ニ之ヲ制

限スルコトヲ得ルモノナリ又雖モ所謂法定代理權屬スル所然レト謂フコト果得ル何ナリナレバ我民法ハ法定代理及ヒ委任ニ因リテ代理ヲ區別スル爲メ標章ハ代理權ノ淵源ヲ委任契約ニ因ルカ否ヲ別ルカ換言セバ代理權ヲ委任ニ因ルカ發生スルカ否ヲ點シ在ルモノニシテ其代理權ノ範圍ヲ法定ナルカ否ヲ點シ在ルモノニ非サルヲ以テナリ法定代理權ノ範圍ハ法律ヲ以テ之ヲ定ムルヲ通常トス但モ代理權ノ範圍ヲ法定ナルヲ以テ法定代理人ト謂フ所ナリ得テ之ヲ定ムルモノハ委任契約ニ因リテ或ハ法律ニ因リテ或ハ商法ニ因リテ或ハ裁判官ニ依リテ定ムルモノニ分ル

(二) 以上支配人ノ代理權ノ性質ニ付テ述ベタルヲ以テ次ニ其所謂法定ノ範圍如何ヲ研究スルカラス即チ支配人ハ主人ニ代リテ其營業ニ關スル一切ノ裁判上又ハ裁判外ノ行為ヲ爲ス權限ヲ有スルモノナリ(第三〇條第一項)抑モ支配人ハ主人ノ營業ニ全部ニ關スル代理權ヲ有スルモノニシテ其行為ハ裁判上又ハ裁判外ノ行為トモ問ハレ得ル營業ニ關スル行為ナルコトヲ要スルモノナリ然レバ以テ營業全部ヲ讓渡スル如キ以テ之ヲ爲スニ關シテ獨逸商法ニ於テハ不動產ノ讓渡其他不動產ヲ所有權ヲ制限スル等ノ行為爲得ルモノ特別ノ委任

本條限ハ代理權カヲ規定シテ本條(同商法第四九條第二項)我商法ニ於テハ嚴シ
如キ規定ナキヲ以テ營業機關ニ依行爲スル以上如何ナル様爲爲シ得ベ
其範圍ニ制限ナシ唯主人ハ本店ハ支店ニ有ル場合ニ於テハ各營業所ニ支
配人ヲ置シ其各營業所ニ付テ代理權ヲ與ルコトヲ得ルハ法律ヲ認察
制限ナシ如シ何トナハル第二十九條ニ「商人ハ支配人ヲ選任シ其本店又ハ
支店ニ於テ其商業ヲ營ベシムルコトヲ得」又第三十一條ニ「支配人ハ選
任及シ其代理權人消滅」之ヲ置キタル本店又ハ支店ノ所在地ニ於テ主人之ヲ
登記スルコトヲ要ストアルヲ以テナリ尙ハ獨逸商法ニ於テハ此場合ヲ以テ明
カニ「ノ制限」認メ且各營業所ノ商號ハ異ナル場合ニ於テ「ノ此制限」以テ
第三者ニ對抗シ得ヘキ以下規定タリ同商法第五〇條第三項「
(三)多數ノ支配人ヲ置タル場合ニ於テ共同シテ支配人ノ權限ヲ行フヘキ
ヲ委任シタル人其效力如何此問題ハ支配人ト主人ト之間ニ於ケル委任
關係ニ於テ有效ナルハ固ニ當然ナリ」ト雖モ之ヲ以テ舊法ハ第三者ニ對シテ
關コトヲ得ル否ヤニ付テハ大ニ議論ヲ起元來支配人ノ代理權カ力モハ非

常ノ廣汎ナリ所以其專横防テ爲メ若ク如キ委任爲メ其決議ヲ
稀有ヲスルニ非ズ之ヲ稱シテ共同支配ト謂フ共同支配ニ舊商法第四十四條ニ
於テハ之ヲ認メ數人共同ニ委任ヲ受ケ各代務ニ總員共同ニ非ズ之ヲ行
フコトヲ得ト規定セリ獨逸商法第四十八條第三項ニ於テ亦之ヲ認メ其第
五十三條ニ於テハ共同支配ニ與ヘラレタリ代理權ニ其共同支配者皆
登記スルコトヲ要スト規定セリ然レトモ我新商法ニ於テハ此ノ如キ規定ナ
ク以テ果シテ此ノ如キ支配人ヲ置クコトヲ得ルニ否キハ即チ議論ニ存スル
ナリ或論者曰ク此場合ニ於テ共同者ノ各人ハ獨立シテ支配人ハ全權ヲ有
ルモ又ハ非ズ又支配人ハ權限ヲ分割シテ各人カ之ヲ分擔スルモノニ非ズ又
恰モ共有者ノ如ク各人カ共同シテ一ノ完全ナル支配權ヲ有スルモノニシテ即
チ共同支配人總員カ合シテ一ノ支配人ト爲ルモノナラズ故ニ支配人ハ權限ヲ
制限セラルモノト謂フコトヲ得ス隨テ第三十條第三項ノ適用ヲ受ク然レモ
非スト論セザル故ニ若シ此論者ノ說ニ依ルトキハ共同支配ニ支配權ヲ制限スル
ナリ以テ之ヲ以テ特意ノ第三者ニ對抗スルコトヲ得ト示スニ歸スルカ如シ

商法施行令 同種營業

第六章 問屋營業

第二節 仲立ノ權利義務
仲立人ハ特約ナキトモ雖モ當然報酬ヲ請求スルコトヲ得第二七四條參照其
請求ヲ爲シ得ヘキ時期ハ媒介ヲ爲シタル行爲成立ト同時ニハ之ヲ爲ス由キ
ヲ得スト雖モ左レハトテ敢テ其行爲カ當事者間ニ於テ履行セラルルヲ待ツ
必要ナシ第三百十二條ハ此兩極端ノ中庸ヲ採リ仲立人カ第三百八條ニ規定
セル書面ヲ作成交付ノ義務ヲ履行シタルトキム其請求ヲ爲スコトヲ得ト規定
シ且其報酬ハ別段ノ意思表示ナキ限リ當事者雙方ニ於テ平分シタルヲ負擔ス
ヘキモノト爲シタル至當ノ規定ト謂フ云々

第六章 問屋營業
問屋營業ハ次章ニ説明スル運送取扱營業ト共ニ第二百六十四條第一項第十二
號ニ規定セル取次ニ關スル行爲トアルニ該號シ所謂補助の商業トシテ前章ニ
仲立ト共ニ商業界ノ大ナル效用ヲ爲シ居ルモ其此制度ハ比較的新ナル設
立ニ係リテ昔時商業未達隆盛ナル該營業ノ範圍狹隘ナル當時ニ在リテ物品

ヲ取得シ又ハ移轉スル云フモ商業使用人ト必要場合ニ用ヒラルル受任者ト
ナレハ敢テ其用ヲ缺クコトナク隨テ實際未タ斯ル特種ノ制度ヲ設ケルニ必要
薄カリシト雖モ商業ノ範圍擴張シテ海外貿易ノ盛ナル所ニ及ビテハ單ニ此等ノ
機關ニ依頼スルノ甚ダ不便ニシテ且不利益ナルヲ以テ終ニ此制度ヲ發見ス
見ルニ至リシナリ即チ中古時代海外諸國トノ交通頻繁ト爲リ彼我ノ取引盛
ニ赴クヤ時勢ノ必要ハ終ニ商人ヲ雇リテ海外ニ於ケル繁華ナル商業地ニハ特
ニ商業使用人ヲ派遣シ以テ之ニ常設ノ營業所ヲ置クノ已ムヲ得タルニ至ラシ
メタリ然ルニ此事タルヤ其利益ノ大ナルハ勿論ナレトモ之ニ伴フ不利益モ亦
尠カラズ遠隔地ニ對スル監督ノ不十分ナルヨリ其商業使用人ノ不正行爲ニ因
リテ不測ノ損害ヲ受タルノ危險アルト共ニ其營業所ノ常設ナルヨリ取引ノ繁
開ニ拘ハラス之ニ多額ノ費用ヲ要スルノ不利益ヲ受テ此危險ト費用トヲ除キテ
而モ之ト同一ノ效果ヲ收メ得ヘキ方法トシテ茲ニ所謂取次ナル制度ヲ案出セ
ラレタルヲ詳言セハ取次人トハ他人ヲ委託ニ依リ手数料ヲ受テ取引ヲ行
ヒ其取引ノ發生時效果ハ總テ之ヲ委託者ニ歸セシムルト雖モ其取引タルヤ

第三者ニ對シテハ即チ自己ノ取引トシテ之ヲ行ヒ自ラ其責ニ任スルノ制度ナ
リ自ラ其責ニ任スルヲ以テ取引ノ相手方ハ唯問屋ノ何人タルヤニ著眼スレハ
足リ彼ノ主人ヲ代理スル商業使用人其他ノ代理人ト取引ヲ爲スカ如クニ毫モ
代理權ノ有無其權限如何ヲ調査スルヲ要セザルハ勿論本人ノ實力信用如何ヲ
問フノ必要モナク隨テ取引ハ敏活圓滿ニ進行スルハ便益アリ加之委託者ヨリ
親ルモ單ニ手数料ヲ支拂フノミニ十分自己ノ欲スル取引ノ目的ヲ達シ得ヘ
ク而モ自己ハ直接ニ責任ノ衝ニ立ツコトナキヲ以テ營業所ヲ常設シテ取引ヲ
爲スヨリ生ズル危險ト費用トハ全ク之ヲ避ケ得ルハ勿論殊ニ問屋營業ハ殆ト
皆巨大ナル資本ヲ運用シテ能ク世上ノ信用ヲ其身ニ集ムル大ナル商業家ニ
依リテ營業マルルモノナルヲ以テ委託者ハ亦問屋ノ資本又ハ信用ヲ自己ノ取引
ニ利用シ得ルノ便益アリ其他問屋ニ取引ヲ委託スルモノニ因リテ其問屋ノ營
業ノ經驗上ノ伎倆ヨリ受クヘキ利益ノ大ナルモノアルハ言フ所ニシ
テ現今此制度カ到ル處ニ隆盛ヲ極メ居ルハ全ク此等ノ事由存スルカ爲メナリ
總ニ所謂問屋ハ舊商法ニハ仲買人ト稱シ居レリ問屋ト云ヒ仲買人ト云フモ其

我國ニテ廣ク通俗ニ用ヒラルル稱呼ナルヲ以テ此改名ノ由來ハ法規ヲ實際ニ適用スル上ニ於テ多少説明ノ價值ナシトセス商法編纂者ハ説明シテ曰ク「我國ノ慣習上仲買人ト稱スルハ寧ロ所謂仲立人ヲ指スカ又ハ自己ノ名ヲ以テ自己ノ計算ニ於テ問屋ヨリ物品ヲ買受ケ之ヲ需要者ニ販賣シ又ハ生産者ヨリ物品ヲ買受ケ之ヲ問屋ニ販賣スル特種ノ營業者ヲ爾方稱シ居ルカ故ニ彼ノ自己ノ名ヲ以テスルモ他人ノ計算ニ於テスル物品ノ販賣人又ハ買受人ハ之ヲ問屋ト稱スルコト至當ナリト然レトモ世上ニ問屋ト稱シ居ル者ノ中ニハ其實自己ノ計算ニ於テ物品ノ買買ヲ爲スコトヲ業トスル者アリ此等ハ茲ニ所謂問屋ニ非サルハ勿論ニシテ或ハ問屋營業ト他人ノ營業トヲ兼スルモノハ認ムベク一概ニ其稱呼ヲノミ區別ノ標準トスルコトヲ得ス果シテ商法ノ所謂問屋ニ屬スルヤ否ヤハ次ニ説明スル問屋ノ意義ヨリシテ之ヲ決スルノ外ハ決シテ其稱呼ヨリ決スルベキ事ナリ」

第一節 問屋ノ意義

問屋營業ハ取次ノ一種ナルコト前述シタルカ如シ故ニ取次ノ何モハ其性質ヲ

明カニセハ問屋ノ意義ヲ了解シ得ル共ニ取次ノ他ノ種類ナル準問屋及ヒ次章ノ運送取扱ノ觀念モ併セテ之ヲ明カニシ得ルヲ便アルヲ以テ先以テ取次ニ關スル説明ヨリ始ムベシ

商法ニハ取次ナル語ノ定義ヲ掲ゲス然レトモ第六章問屋營業及ヒ第七章運送取扱營業ニ關スル規定ヨリ推シテ取次ヲ定義セハ取次ハ其營業トシテ自己ノ名ヲ以テ他人ノ爲メニ法律行為ヲ爲スヲ謂フト解シテ可ナリ即チ

(一) 法律行為ヲ爲スコト 多數ノ立法例ニ於テハ取次ノ目的タル法律行為タル之ヲ商行爲ニ限ルト雖モ現行法ハ非商行爲モ亦其目的タリ得ベシト爲セリ但取次ニ關スル行為ヲ營業トシテ爲ス者即チ取次人ハ第四條及ヒ第二百六十四條第一項第十一號ニ依リ純然タル商人ナルヲ以テ取次營業者タル商人カ其營業ノ爲メニ爲ス法律行為ハ縱令其取次ヲ委託シタル者ヨリ觀テ非商行爲ナリトスルモ其取次營業者ニ取リテハ常ニ商行爲タルコトニ注意スベシ

(二) 其法律行為ハ自己ノ名ヲ以テ行フコト 自己ノ名ヲ以テスルハ法律行為ノ主格ト爲ルノ謂ニシテ他ノ方面ヨリ言ヘハ取次人カ委託者ノ名ヲ以テ其

行為ヲ爲スニ非タルコトヲ意味ス取次ハ他人ノ爲メニ法律行為ヲ爲シ隨テ其行為ノ效果ハ之ヲ委託者ニ歸スルモノナレトモ是ハ唯取次人ト委託者ト之間ニ於ケル内部ノ計算關係タルニ止マリ取次人ト取次行為ヲ相手方トノ關係ニ於テハ取次人ハ代理人ヲ以テ立タス自ラ其行為ノ主格ト爲リ又取引スルモノナルヲ以テ相手方カ其行為カ他人ノ委託ニ出タタルコトヲ知ルト否トニ拘ハラス自ラ其行為ニ因リテ權利ヲ得義務ヲ負フモノトス尙ホ自己ノ名ヲ以テスル結果トシテハ取次人ノ爲シタル法律行為ハ之ヲ委託シタル者ノ詐欺錯誤又ハ脅迫等ニ因リテ其成立ニ影響ヲ受タルコトナキハ勿論相殺ノ如キモ取次人自身ニ生シタルモノニ非サレハ相手方ニ對シテ之ヲ主張シ得アル等ハ殆ト言フヲ換タサル所ナリ要スルニ取次人ハ自己ノ名ヲ以テ取引ヲ爲サタルベカラス故ニ縱令他人ノ爲メニ法律行為ヲ爲スモ自己ノ名ヲ以テセシテ他人ノ名ヲ以テスルトキハ代理人タルコトアルモ斷シテ取次タルコトナシ勿論自己ノ名ニ於テスト云フモ自ラ業務執行ノ任ニ當ルト云フニ非ス商業使用人ヲシテ之ヲ營マシムルモ勿論取次タルニ何等ノ妨ナシ

(三) 其自己ノ名ヲ以テ行フ法律行為ハ他人ノ爲メニスルモノナルコトハ他人ノ爲メニスルトハ他人ノ計算ニ於テスルノ間ニシテ換言スレハ行為ノ效果ヲ他人ニ歸スルヲ謂フ取次ヲ業トスル者ハ商人ナリ商人ハ普通自己ノ計算ニ於テ自己ノ名ヲ以テ其業務ヲ營ムヲ例トスルモ取次人ハ之ト異ナリ自己ノ名ヲ以テスル結果トシテハ前述シタル如ク其行為ノ相手方ニ對シテ自ラ其責任ニ任スルモ元來其行為タルキ他人ノ委託ニ基キタルモノナルヲ以テ其行為ヨリ生スル損益ハ兩ナカラ之ヲ委託者ニ歸セサルハカラス故ニ取次ノ目的ト爲スルコトヲ得ル法律行為ハ自然他人ヲシテ爲サシムルコトヲ得ルモノニ限ラルルト同時ニ其行為ノ效果ヲ他人ニ歸スルコトヲ得ルモノニ限定セラルルナリ

(四) 其他人ノ爲メニ自己ノ名ヲ以テスル法律行為ハ營業トシテ之ヲ行フコトト取次カ商行爲タルニハ敢テ之ヲ營業トシテ行フヲ必要トセサル立法例アリト雖モ我現行法ハ第二百六十四條ニ於テ之ニ營業ノ觀念カ加ハルコトヲ必要トセリ隨テ少クモ商法上ノ取次契約ハ取次ヲ營業トスル者ト間ニ締結セラルルニ非サレハ成立セザルコト雖ニ仲立ニ關シテ述ハタル所ニ同シ

以上ノ説明ニ依リテ略テ取次ニ關スル觀念ヲ了解シ得タルヲ以テ之ヲ略シテ其名稱ニ甚タ相類似シテ而テ全ク其實質ニ異ナル仲立ト比較對照スルニ當リ其觀念ヲ明カニスルコトヲ得ルヲ以テ左ニ兩者ノ差別ニ付テ一言スルニ即チ「兩者ハ其ニ他人ヲ爲メニ或行爲ヲ爲スヲ以テ仲立人ハ他人間ノ法律行爲ヲ媒介スト云フ事實上ノ行爲ヲ爲スニ過キタルニ反シ取次人ハ自己ノ意思ヲ表示シテ法律行爲ヲ爲スニ差アリ」ト云フニ在リ

(一) 仲立ハ唯當事者ノ間ニ立テ雙方ノ意思ヲ傳達スルニ止マルニ對シ取次ハ取次人自ラ取次行爲ノ當事者ト爲ルヲ其結果トシテ仲立ニ因リテ成立スル行爲ハ第三者ト委託者トノ間ニ其效力ヲ生ズルニ反シ取次行爲ハ因リテ成立スル行爲ハ取次人ト其取次行爲ノ相手方トノ間ニ其效力ヲ生ズルニ在リ

(二) 第三ノ區別トシテハ仲立ト取次ト目的タル行爲トカニ對シ商行爲ニ限ラズ他ハ商行爲タルト非商行爲タルトノ間ハ其點是ナリト云フニ在リ

(三) 此等ハ法規上ニ對シ觀察シテ然差別スルニ在リ此差別アルニ基キ仲立ト取次ト

商ノ實際ニ於テ其作用ヲ異ニシ各特殊ノ大ナル效果ヲ現物シ居ルハ既述タルヲ就テ對照セバ頗ル興味ヲ感スルニ至ルニ在リ

以上ノ取次ヲ取次契約ノ内容ニ對シ觀察シテ其說明ヲ爲スルモノハ本條ノ趣意ヲ仲立ノ場合ニ於ケルニ等シク一箇契約關係ニ對シ觀察スルモノハ取次ハ當事者ノ一方カ自己ノ爲メニ相手方ノ名ヲ以テ法律行爲ヲ爲スコトヲ相手方ニ委託シ相手方之ヲ承諾スルニ因リテ效力ヲ生ズルモノナリト謂フニ可ク又得此契約ノ性質如何ニ付テハ學者ノ說ク所ニ様々シク或ハ委任ナリト說キ或ハ雇傭ナリト論スト雖モ寧ろ代理ノ目的トモナル一種ノ委任ナリト解スルニ至當トシ我現行商法ハ第三百十四條第二項ニ於テ之ニ委任及ヒ代理ニ關スル規定ヲ專用シ居ルニ尙ホ此事ヲ付テ問題ト委託者又ハ第三者トノ關係ヲ詳論スルニ當リテ說ス所アルハ實又ハ買入ニ對シ組合ニ對シハ代價第三項取次ノ目的ハ法律行爲ヲ爲スニ在リ而シテ法律行爲ノ種類ニ制限ナキト其取次モ亦種種ニ之ヲ類別スルコトヲ得ヘシト雖モ現行商法ノ規定上ヨリ分類セハ第一物品ノ販賣又ハ買入ニ關スル取次第二運輸ニ關スル取次第三此等以

買入圖スル取次營業者ノミヲ指シテ慣例アリ然レモ力ヲ乏此外如各立法機關ハ規定ノ錯雜ヲ避クルハ便利アリテ且其體裁ヲ完ラシ得ベキナリ今第三十二條ニ於テハ

第二節 問屋契約ノ效力

問屋契約ノ效力トシテ其事者タル問屋ト之ニ物品ノ販賣又ハ買入ヲ委託シタル者トノ間ニ生スル法律關係ヲ説明スルニ當リテ先ツ之ニ牽連セル問題即チ問屋契約ノ目的タル販賣又ハ買入ハ何人間ニ其效力ヲ生スルヤノ問題ヲ付ク一言スヘシ蓋シ問屋ノ行ニ販賣又ハ買入ハ問屋契約ノ履行ニ由リテ全ク他人ノ委託ニ出ヅルモノナルヲ以テ或ハ此賣買ニ因リテ其相手方ト委託者トノ間ニモ一種ノ法律關係ヲ發生スルコトナキヤノ疑念ヲ抱ケル者ナキニ非ズ限リテモレハ特ニ之ヲ決定シ置クノ必要アリ然レドモ此問題ハ前章問屋ノ意義ニ關スル說明ニ參照セバ容易ニ之ヲ解決スルコトヲ得ベシ即チ其販賣又ハ買入ハ唯問屋ト相手方トノ間ニ通常ノ賣買ト異ナルコトナキ效力ヲ生スルニ止マリ其相手方ト委託者トノ間ニハ何等ノ法律關係ヲ生スヘキニ非ズ他人ノ委託ニ出

問屋契約ノ效力

一五五

カタバニモモト問屋ハ相手方ニ對シテ委託者ノ名ヲ以テ附テ其代理人トシテ
 賣買ヲ爲シタルニ非ス自己ノ名ニ於テ即チ自ラ賣主タリ買主トシテ其取引英
 爲シタルナリ然ラハ其賣買ノ效果トシテ生ズル相手方ニ對スル權利義務ハ舉
 ケテ之ヲ問屋ノ一身ニ歸屬セシメ委託者ヲシテ毫モ之ニ與ルコトナカラシム
 ルハ理ノ當然ナレハナリ第三一四條第一項要スルニ委託者ハ賣買ノ相手方ニ
 對シテ何等ノ義務ヲ負ハサルト共ニ何等ノ權利ヲ取得スルコトナシ隨テ委託
 者カ其相手方ニ對シテ自ラ權利ヲ主張シ得シハ唯委託者カ問屋ヨリ其問屋
 ノ名ヲ以テ取得シタル權利ノ移轉ヲ受クルカ第三一四條第二項及ヒ民法第六
 四六條第二項又ハ間接訴訟權ノ行使ニ依ルカ民法第四二三條ノ方法存スルノミ
 問屋契約ノ目的タル販賣又ハ買入ヨリ生ズル法律關係ニ付テハ如上ノ簡單ナ
 ル説明以上ニ述フヘキモノナシト雖モ次ノ問題タル本節ニ所謂問屋契約其モ
 ノノ效力トシテ問屋ト委託者トノ間ニ如何ナル法律關係ヲ生スルヤニ付テハ
 詳細ナル説明ヲ要スルモノアリ第六章ニ唯第三百十四條第一項ト第三百二十
 條トヲ除ク外總テ本問ニ對シテ其規定ヲ爲シ居レリ之ニ付テ第三二條說明ス

ヘキハ問屋ト委託者トノ間ニハ原則トシテ民法商法ノ委任及ヒ代理ニ關スル
 規定カ準用セララルコト是ナリ第三一四條第二項此事タルヤ畢竟問屋契約ハ
 委任若クハ少クトモ之ニ近似ノ性質ヲ有スル契約ナリトノ觀念ヨリ出タル
 ニ外ナラス予ノ信スル所ニ依レハ問屋契約ハ代理ヲ目的トセサル一種ノ委任
 契約ニ外ナラサルカ故ニ我現行民法ノ如ク委任ヲ以テ必スシモ代理ヲ目的ト
 スルコトヲ必要トセサル立法ノ下ニ在リテハ委任ノ規定ハ當然問屋契約ニ其
 適用アルモノナリト信ス兎ニ角本條ノ規定アル結果トシテ民法商法中委任ニ
 關スル規定ノ殆ト全部並ニ代理ノ規定中復代理人ノ選任民法第三〇四條其選
 任ヲ爲シタル場合ニ於ケル代理人ノ責任民法第一〇五條復代理人ノ本人ニ對
 スル權利義務民法第一〇七條第二項及ヒ同時ニ反對ノ利益ヲ有スル者ノ代理
 ニ關スル規定民法第一〇八條等ハ皆此場合ニ準用セラル此ノ如ク商法ハ問屋
 ニ關スル規定ノ大部分ヲ委任及ヒ代理ニ關スル民商一般規定ニ譲リタルヲ以
 テ茲ニ規定スル所甚タ少ク唯此一般法規中當事者ノ權利義務ニ關スル部分ニ
 對シ實際ノ必要上數箇ノ特別規定ヲ爲シ居ルニ過キム以下之ヲ問屋ノ義務ニ

關スル特別規定及其權利ニ關スル特別規定ト分説スルニ關シ、
 第一 同屋ノ義務ニ關スル特別規定ノ說明ニ入ルニ先テ訂解ニ便ナラシメシカ爲メ、
 同屋ノ義務ニ關スル特別規定ノ說明ニ入ルニ先テ訂解ニ便ナラシメシカ爲メ、
 受任者ノ義務ニ關スル民法ノ規定ヲ略言シ其順序ニ從ヒテ特別法規ノ說明
 ヲ爲スヘシ先ツ受任者ハ委任ノ本旨ニ從ヒ若クハ少クモ委任ノ本旨ニ反セ
 ナル範圍内ニ於テ善良ナル管理人ノ注意ヲ以テ委任事務ヲ處理スル義務アリ
 (民法第六四條及七條參照)其他或ハ委任事務ノ狀況及ヒ其順末
 ヲ報告シ(民法第六四五條參照)或ハ計算ヲ爲シ(民法第六四六條參照)或ハ消費シ
 タル金額ニ利息ヲ附シ尙ホ其損害ヲ賠償スルノ義務アリ(民法第六四七條參照)
 此等ハ民商一般法ノ規定スル所ニシテ之ニ對シ商法カ同屋ニ關シ如何ナル特
 別規定ヲ爲シ居ルカハ以下順次之ヲ說明セントス
 (一) 同屋ハ一般ノ受任者ト等シク委任ノ本旨ニ從ヒ又ハ委任ノ本旨ニ反セザ
 ル範圍内ニ於テ同屋事務ヲ處理スルコトヲ要シ然ラザレバ其行為ノ效果
 ヲ委託者ニ歸セシメ得サルハ勿論損害アレハ之ヲ賠償スルハキヲ原則トスルモ

民法第四一三條第二項同第六四四條及七條參照之ニ對シテ特別
 場合ニ關スル一ノ例外アリ即チ委託者ノ指定シタル金額ヨリ廉價ニテ販賣
 ヲ爲シ又ハ高價ニテ買入ヲ爲シタル場合ニ關シテハ同屋ハ其指定制限額ト販
 賣又ハ買入ヲ爲シタル實際代價トノ差額ヲ負擔シ以テ委託者ニ對シテ其賣買
 ノ效力ヲ生セシムルコトヲ得(第三一六條)何故ニ特ニ同屋ニ對シテ其賣買
 委任越ノ責任ヲ認メタルヤト云フニ若シ然ラズシテ絕對ニ同屋ニ其責任ア
 リトセバ如何同屋營業者ハ其束縛甚シキヨリ終ニ金額ノ指定アル委託ハ努
 メテ之ヲ避クルノ結果ヲ生シ却テ委託者ニ大ナル不便ヲ與フベシ且委託者ヨ
 リ見ルモ同屋カ差額ヲ負擔スルニ於テハ其行為ノ結果ヲ自己ニ負擔スルベシ少
 クトモ現實ノ不利益ヲ受クルコトナケレバナリ唯廉價ニ販賣シタルカ爲メ他
 ノ販賣品ノ價格ニ影響ヲ受クルカ如キ多少ノ不利益ナキニ非サルモ全體ノ利
 害ヨリ打算シテ商ノ實際ハ事此ノ如シ規定スルヲ便利トスルナリ
 (二) 一般ノ受任者ハ善良ナル管理人ノ注意ヲ以テ委任事務ヲ處理シタル以上
 ハ縱令其相手方ニ於テ債務ヲ履行セザルモ取テ委託者ニ對シテ其責任アリ

又ハ買入ニ對シテ相手方ノ不履行ニ付キ自ラ其履行ヲ稱念ノ責任ヲ負ス(第三
 五條外國ニ於ケル多數ノ立法ニ事ニ相手方ノ不履行ニ付キ同屋ノ責任ヲ負
 ハシメサルヲ原則トシ唯別段ノ意思表示又ハ慣習存スル場合ニ其責任任セ
 ムルヲ例トスルモ我現行法ハ之ト全ク正反對ノ原則ヲ採用シタルナリ其理由
 ハ要スルニ我國從來ノ慣習事ニ現行法ノ規定スルカ如クニシテ而モ此主義タ
 ルヤ多少同屋ニ苛酷ノ嫌ナキニ非サルモ能ク委託事務ニ忠實遺漏ナカラス
 以テ同屋ノ信用同屋制度ノ發達ヲ助長スル上ニ於テ大ナル效益アレハナリ
 (三) 同屋ノ委託者ノ請求アリタルトキハ委任事務處理ノ狀況ヲ報告シ又同屋
 事務終了ノ後ハ遲滞ナク其顛末ヲ報告スルノ義務ヲ負フコト一般ノ受任者ト
 異ナルコトナキモ(第三十四條第二項民法第六四五條參照)同屋ハ尙ホ進マテ或
 種類ノ取次ヲ包括的ニ委託スル場合ニ在リテハ委任ノ終了ヲ待タズ其各
 箇ノ行為ヲ爲シタル毎々遲滞ナク委託者ニ對シテ其通知ヲ發スルコトヲ要ス
 (第三十九條第三七條參照)蓋シ一般ノ委任規定ニ於ケルカ如ク折ル場合ニ於テ

擔セヌ
 トセリ而シテ海上保險ナルカ故ニ勿論海上ニ起リタル危險ノ責任擔スヘキ
 モノナレトモ餘リニ海上ナル文字ニ拘泥スルトキハ却テ不當ナル結果ヲ起ス
 (例ヘハ暴風雨ノ爲メニ已ムヲ得ヌ避難港ニ入港シ尙ホ安全ヲ圖ル爲メニ
 積荷ヲ陸揚シテ倉庫ニ入レタルニ火災ニ罹リテ燬失シタルトキハ是レ即チ陸
 上ノ危險ナリト雖モ畢竟海上危險ノ結果之ニ對スル防禦ノ途ニ於テ生シタル
 モノナルカ故ニ保險者ハ之ヲ負擔セサルヘカラス故ニ我商法ノ「航海ニ關スル
 事故」トハ總テ此等ヲ包含スルカ故ニ頗ル適當ナル概括的用語ト謂フヘキナリ
 以上述フル所ノ危險ナル文字ハ即チ危險ナル事故ヲ意味スルモノニシテ此外
 尙ホ危險ノ程度及ヒ狀態ノ意味ニ使用セラルルコト前ニ説明シタルカ如シ而
 シテ之ニ付テ商法ノ規定スル所左ノ如シ
 (一) 航海ノ變更 航海ノ變更トハ保險契約ヲ締結シタル後約定シタル航海ヲ
 變更スルノ謂ニシテ航海トハ例ヘハ橫濱ヨリ桑港ニ至ル間ヲ目的トシテ航行
 スル場合ニ橫濱ヲ出發港トシ桑港ヲ到達港トスルカ如キヲ謂フ後ニ謂フ所ノ

航路ハ航海ヲ爲スニ付テ航路ノ所ニ進路ニシテ通常航海ノ一部分ナリトス例ヘハ横濱ヨリ布哇ニ至リ布哇ヨリ桑港ニ至ル航路ト謂フカ如シ而シテ此航路ニハ又他ノ航路アルヲ妨ケス例ヘハ布哇ニ寄港セシテ直ニ桑港ニ至ル航路ノ如シ然リ而シテ航海ノ變更ハ危險ノ狀況ニ變化ヲ起スモノナルカ故ニ契約ノ效力ニ影響アルハ當然ニシテ我商法ハ之ヲ保險者ノ責任開始ノ前後ニ依リ區別シ開始前ナレハ變更ノ原因如何ヲ問ハス契約ハ其效力ヲ失ヒ開始後ナレハ變更カ被保險者ノ責任ニ歸スヘキ事由ニ因ル場合ニ限リ保險者ハ變更後ノ事故ニ付キ責任ヲ負フコトナシトセリ茲ニ責任ヲ負フコトナシト云フ文字ヲ使用セルハ畢竟效力ヲ失フコト同意味ナレトモ此ノ如キ場合ハ海上保險ノ規定ニ於テ特別ナルカ故ニ此文字ヲ用ヒタルナルヘシ第六二條)

以上ハ他種ノ保險ト異ナル所ニシテ第四百十條及ヒ第四百十一條ヲ參照シテ其差異ヲ見ルニ他種ノ保險ニ於テハ保險期間中ノ危險ノ變更增加カ被保險者ノ責任ニ歸スヘカヲナル事由ニ由ルトキハ保險契約者又ハ被保險者ハ之ヲ知リタヨリ直チニ保險者ニ通知シ之ヲ怠リタルトキハ契約ノ效力ヲ失フトスレト

モ海上保險ニ於テ危險不可抗力又ハ第三者ノ不法行為ノ爲メニ航海ヲ變更セタルヘカヲサルニ至リタルトキハ當然他ノ到達港ニ回航セタルヘカラス之カ通知ヲ發シ保險者ハ之ヲ以テ解除權ヲ行フカ如キハ迂遠ニシテ事實ニ違キカ故ニ海上保險ニ限リ契約ヲ繼續セシメタルナリ次ニ航海ノ變更トハ既ニ變更ノ意思ヲ有シ其實行ニ著手シタルトキニ謂フヘキモノニシテ事實ニ未タ保險シタル航路ヲ離レタルモ是レ偶ニ航路一致セルニ止マリ航海ハ即チ變更セルモノト看做スナリ

(二) 航路ノ變更並ニ發航及ヒ航海繼續ノ遲滯其他危險ノ著シキ變更増加航海ト航路トノ區別ハ前ニ述ベタルカ如シ航路ノ變更モ亦危險ノ狀況ニ變化ヲ起スモノナルカ故ニ之ヲ以テ保險者ノ責任ヲ解クモノトス此外發航ヲ怠リ又ハ航海ノ繼續ヲ遲延スルカ如キハ時ニ關シ隨テ危險ノ度ニ關スルモノニシテ其他ノ著シキ危險ノ變更増加ト共ニ保險者ノ責任ヲ解クモノトス但此等カ不可抗力又ハ正當ノ事由ニ因リテ生シタルトキ又ハ其變更増加カ事故ノ發生ニ影響ヲ及ボサナリシトキハ此限ニ在ラストアル理由ハ前ト同一ニシテ且第六

百六十三條ニ責任開始ノ前後ヲ區別セスシテ此規定ニ依ラシメタルハ此等ノ危險ノ變更増加ハ航海ノ變更増加ヨリ幾分力輕キ事項ナリトシタルカ故ナリ
(三) 船長ノ變更 船長ノ良否ハ航海ノ安全ニ關シ隨テ其變更ハ危險ノ狀況ニ影響スルカ故ニ之ヲ以テ危險ノ變更増加ト看做シ我國ノ海上保險證券ニハ此ノ如キ場合ニハ保險契約者ニ通知義務ヲ負ハシメ保險者ノ承諾ヲ要スルコトトセリ然レトモ是レ航海事業力未タ十分ナル發達ヲ爲ササル時代ニ於ケル變則ナル條款ニシテ我商法ニ於テハ第六百六十四條ニ於テ船長ノ變更ハ契約ノ效力ニ影響ヲ及ホサスト明言セリ

(四) 船舶ノ變更 船體以外ノ保險ニ付キ船舶ノ變更ヲ惹起シタルトキハ明カニ危險ノ變更ナルカ故ニ之カ保險契約者被保險者ノ責ニ歸スヘカラサル事由ニ因リタル外之ヲ以テ保險者ノ責任ヲ解クモノトス(第六六五條)船舶ニ關係シテ第六百六十六條ハ注意スヘキ簡條ナリ即チ保險契約ヲ爲スニ當リ荷物ヲ積込ムヘキ船舶ヲ定メサリシ場合ニ於テ保險契約者又ハ被保險者カ其荷物ヲ船積シタルコトヲ知リタルトキハ遲滞ナク保險者ニ船舶ノ名稱及ヒ國籍ヲ通知

ヲ發スルコトヲ要シ其通知ヲ怠リタルトキハ契約ハ效力ヲ失フ旨ヲ規定セルコトナリ然レトモ保險者カ所謂無船名證券(ブローチング、ボリス)ヲ以テ契約ヲ結ビタル以上ハ其船舶ノ如何ハ問フ所ニ非ス故ニ之カ通知ヲ契約失效ヲ制裁ヲ以テ保險契約者又ハ被保險者ニ強制スルコトハ事情ニ通セサルモノト謂ハサルヘカラス且此ノ如ク重大ナル事項ナレハ單ニ通知ト謂ヘルコトヲ以テ足レリトスルハ權衡ヲ失ヘリト謂ハサルヘカラス

第四項 損害填補

海上保險ニ於ケル損害填補ニ付テハ特種ナル場合頗ル多シ左ニ其著シキ事項ヲ列舉セントス
(一) 小損害 保險契約ノ目的ハ損害ノ填補ニ在リト雖モ過小ナル損害ハ當ニ之ヲ計算スルニ費用ヲ要スルノミナラス海上ニ於テアリ得ルコトニシテ又之カ負擔ハ被保險者ニ取リテ大ナル利害ニモ關セサルヲ以テ保險者ヲシテ填補スルヲ要セザラシムル規定ヲ設クルコト歐米諸國ニ其例多ク我商法ハ第六

百六十八條ニ共同海損ニ非サル損害又ハ費用カ其計算ニ關スル費用ヲ算入セ
 スシテ保險價額ノ百分ノ二ヲ超エタルトキハ保險者ハ之ヲ填補スル責ニ任セ
 ス若シ之ヲ超エタルトキハ勿論費用モ共ニ之ヲ填補スヘシト定メタリ共同海
 損ヲ例外トシタルハ共同海損ハ通常多人數ニ分擔スルモノニシテ小額ナルコ
 ト多ク又海損ニ當リ必ス計算スルモノナルカ故ナリ勿論百分ノ二ト云フコト
 ハ立法者ノ專斷ニ過キス當事者カ其以上又ハ以下ヲ定ムルコトハ隨意ナリト
 ス而シテ海上ノ損害ハ航海中屢發生スルモノナルカ故ニ百分ノ二ナル割合ハ
 一航海ヲ通計シテ之ヲ謂フモノトス

(二) 積荷ノ損害 積荷ハ出發港ヨリ到達地ニ至ルマテ常ニ場所ヲ變更スルモ
 ノニシテ危險ニ遭遇シタルトキ其損害ノ額ヲ計算スルニ普通ノ方法即チ損害
 發生ノ地及ヒ時ニ於ケル價額ヲ標準トスルコト(第三九三條)難キカ故ニ特ニ第
 六百五十七條ニ船積ノ地及ヒ時ニ於ケル價額及ヒ船積並ニ保險ニ關スル費用
 ヲ以テ保險價額トスト定メタレトモ積荷カ全然沈没セル場合ハ格別ナレトモ
 毀損シナカラ到達港ニ揚リタル場合ニ於テハ其損害ヲ評價スルニ付キ到達港

ニ於ケル相場ニ依ラサルヘカラス又之ヲ以テ至當ノ方法ナリトスルカ故ニ其
 場所ニ於ケル完全ナル積荷ノ見積價額ト現ニ不完全ナル積荷ノ見積價額トヲ
 比較シ例ヘハ十二對スル八ノ割合ニ下落シ居ルトキハ保險價額ノ一部ヲ填補
 スルニ當リ其十分ノ二ヲ填補スルモノナリトス(第六六九條)若シ又積荷カ途中
 ニ於テ不可抗力ノ爲メ到達港マテ持來ルコトヲ得スシテ之ヲ賣却シタル場合
 ニハ其賣價ヨリ運賃又ハ賣却費用等ヲ控除シタル殘餘ヲ保險價額即チ船積ノ
 際ニ於ケル價額又ハ約定ノ價額ヨリ差引キ其殘餘即チ實損ヲ保險者ニ於テ負
 擔スルモノトス是レ頗ル解シ易キ理ナリトス第六七〇條面シテ買主カ代價ヲ
 支拂ハサルトキハ保險者之ヲモ負擔セサルヘカラス但買主ニ對スル權利ヲ荷
 主ヨリ取得スルモノトス勿論荷主ハ相當ナル注意ヲ以テ買主ヲ選ビタルコト
 ヲ條件トセサルヘカラス是レ別ニ商法ニ明定スル所ニ非サレトモ條理上當然
 ノ事ニシテ又損害ノ防止ヲ努ムル方法ナリトモ謂フコトヲ得ルナリ

第三章 保險業法

我保險業法ハ全篇百十五箇條ヨリ成リ第一章ニ保險會社ノ設立ニ關スル規定、其監督ノ所屬及ヒ監督官廳ノ權限ヲ定メ第二章ニ保險株式會社ニ特殊ナル條項ヲ規定シ第三章ニ相互保險會社ノ設立、社員ノ權利義務會社ノ機關會社ノ計算、定款ノ變更、解散及ヒ清算ノ條項ヲ商法ノ會社ノ規定ニ於ケル順序、體裁ニ從ヒテ規定シ第四章ニ保險會社ニ最重要ナル計算ノ事ヲ特定シ第五章ニ罰則ヲ置キ終ニ附則トシテ施行ニ關スル規定及ヒ從來ノ保險會社ニ對スル適用ヲ揭ケタリ其模範ヲ普瀋西草、奧太利保險條例、那威草案ニ採リタルカ如ク且我國ノ實況ヲ參酌シ比較的ニ簡單ニ比較的ニ寛大ナル監督法ト謂フテ可ナリ而シテ我國ニ始メテ相互保險會社ナルモノヲ認メテ條項ノ大半ヲ之ニ費シ世人ヲシテ我保險業法ハ相互保險會社ナリトノ好評ヲ下サシメタルハ立法者カ保險事業ノ本則ハ相互保險ニ在リ相互保險ハ人民ノ利益ノ爲メニ獎勵スヘキモノナリト思惟シタニ因ルト云フ者アレトモ是レ信スヘカラサルノ說ナリ何トナレハ會社ノ組織ハ株式ニモアレ相互ニモアレ保險事業其モノハ元來被保險者ノ相互救済ニシテ相互保險會社ニモ獎勵スヘキ理由ナク株式保險會社

規定存シタルトキハ裁判官ハ其規定ニ從ヒテ主張事實ノ眞否ヲ決セザルヘラス我國ニ於テ舊民法證據編ノ行ハレタルトキニハ其規定ニ拘束セラルヘキモノナリシト雖モ現行法ニ於テハ特ニ證據ニ關スル規定ナシ然レトモ各法律ヲ抽象的ニ觀察スレバ次ニ述フル法則アルコトヲ知ルヲ得ヘシ

(4) 證據原因ハ訴訟ニ因リテ得タルモノニ限リ利用スルコトヲ得故ニ裁判官カ自己ノ確信ヲ構成スル證據原因ハ口頭辯論ニ於テ直接ニ當事者ヨリ聽キ若クハ證據調ニ因リテ得タルモノナルコトヲ要ス唯人事訴訟法ニ於テハ當事者ノ提出セタル事實ヲ裁判官カ斟酌シテ證據調ヲ爲スコトヲ得ヘシト雖モ其事實又ハ證據調ノ結果ニ付テハ當事者ヲ審訊スルコトヲ必要トス人事訴訟手續法第一四條參照口頭辯論ヲ經テ得タル手續ニ於テハ裁判官ハ其手續上書面ニ表ハレタル證據原因ニ限リ之ヲ取捨スルコトヲ得ヘク訴訟手續上ニ表ハレタル證據原因ハ採リテ以テ確信ヲ構成スル材料ト爲スコトヲ得ス故ニ證據原因ハ裁判官カ裁判官トシテ職務上知り得タルモノニ非アレハ之ヲ採用スルコトヲ許サス換言スレバ一私人トシテ知り得タル事項ハ確信ノ材料ト爲スコトヲ得ナ

ルモノトス。是レ裁判官ノ専横ヲ防グ目的ニ出ツルモノナリ。又ハ、ロイモ、
(ロ) 證據原因ハ最も善良ナルモノヲ採用スルコトヲ要ス。故ニ證人ノ證言ハ調
書ニ依リテ知ルコトヲ許サス。法律ハ證人ハ裁判官カ直接ニ訊問スルコトヲ必
要ト爲シ鑑定人ノ鑑定ニ付テモ亦同シ書證ニ付テモ證據方法ノ申出シテ原
本若クハ正本等ヲ提出セシメ、原本ノ提出ハ之ヲ或場合ニハ許ササルカ如キ是
ナリ。證據原因ハ、證據ニ付テハ當事者ハ證據方法ハ最も能ク之ヲ利用スル
(ハ) 訴訟法ニ從ヒテ當事者ヨリ提出シタル證據方法ハ最も能ク之ヲ利用スル
コトヲ要ス。即チ證據方法ノ價值ナキコト明白ナラサル以上ハ之ヲ用グルコト
ヲ必要トシ而シテ可成の眞實ヲ明カナラシムル様利用セサルヘカラス。即チ訴
訟ニ於テ表ハレタル證據方法ハ係爭事實ノ眞否ヲ明カナラシムルカ爲メ可成
的之ヲ用ヒ且爭點ヲ明カナラシムル爲メニハ最も善ク利用スヘキコトヲ命セ
リ。例ヘハ證人ニ對シテ訊問スヘキ事項ニ牽連シテ陳述ヲ爲サシムルカ如キ是
ナリ。又、證據原因ハ、證據ニ付テハ當事者ハ證據方法ハ最も能ク之ヲ利用スル
(ニ) 證據原因ノ價值ヲ定ムルニハ法律ノ規定ニ從ハサルヘカラス。其價值ヲ定

ムルニ付テ總テノ場合ヲ法律ニ規定スルコト雖モ或一定ノ場合ハ訴訟
法民法等ニ其規定ヲ存ス。苟モ其規定アル以上ハ之ニ從フコトヲ要ス。例ヘハ法
律上ノ推定ノ如キ是ナリ。法律上或事實ノ存在ヨリ他ノ事實ヲ推定シタル場合
ノ如キハ裁判官ハ内心ニ於テ之ニ異ナリタル心證ヲ抱タト雖モ法律ノ推定ニ
ハ拘束セララルモノトス。推定ニ完全ノ推定ト不完全ノ推定トアリ。完全ノ推定
ハ反證ヲ許サス。不完全ナル推定ハ反證ヲ許スヘキモノトス。不完全ナル推定ト
雖モ反證ナキ限ハ法律上ノ推定ニ拘束セラルヘキモノナリ。例ヘハ訴訟法ニ於
ケル公示送達ノ場合ノ推定ノ如キ。又公正證書檢異ヲ經タル私署證書ニ付テハ
偽造若クハ變造ノ申立ナキ限ハ第三五一條參照之ヲ眞實ト看做スカ如キ是ナ
リ。前者ハ絕對的ノ推定ニシテ後者ハ一定ノ推定ニ過キス。
(ホ) 裁判官ノ確信ノ標準ト爲リタル理由ハ之ヲ開示スルコトヲ要ス。我訴訟法
ニ於テハ特ニ判決ニ心證ノ標準ト爲リタル理由ヲ開示スルコトヲ規定セシメ、
雖モ法文ノ規定ヲ待タスシテ確信ノ理由即チ係爭事實ニ關スル眞否ヲ判斷ス
ル理由ハ之ヲ判決ニ表示セザルヘカラス。又、若クハ、證據手續ニ於テハ

特ニ明文ヲ設ケテ其理由ヲ開示スヘキコトヲ命セリ是レ裁判官カ係争事實ノ
眞否ヲ如何ニシテ知リ得タルヤヲ明カナラシムル目的ニ出ツルモノニシテ
裁判官カ公平且誠實ニ係争事實ノ判斷ヲ爲シタルコトヲ明示スルニ外ナラス
若シ確信ノ理由ヲ表示セサルモノトスレハ或ハ裁判官ハ不法ニ事實ヲ認定シ
當事者ニ對シテ不利益ヲ被ラシムル虞アルヲ以テナリ
以上ノ外舊民法證據編ニ於テハ或ハ證人ノ證言ノ證據力ニ付テ精細ナル規定
ヲ設ケ其他舊證ニ付テノ規定ヲ設ケテ雖モ實施セラレタルヲ以テ説明ヲ略ス
第二 證據ヲ效力ニ付テハ二ノ主義アリ自由心證主義及ヒ法定證據主義是ナリ法定
證據ノ效力ニ付テハ二ノ主義アリ自由心證主義及ヒ法定證據主義是ナリ法定
證據主義ハ當事者カ係争事實ニ付キ法律ニ規定セラレタル方式ニ從ヒ立證行
爲ヲ爲シタル以上ハ裁判官ハ縱令其事實ノ眞否ニ付テ確信ヲ得タルモ其證
據ニ拘束セラレ其事實ヲ眞實ナリト認メテ裁判ヲ爲ササルハカラス隨テ係争
事實ニ關スル立證ノ結果ハ當事者自ラ提出スルモノヲ自由心證主義ニ從ヒ
ハ裁判官ハ係争事實ノ眞否ヲ判斷スルニハ自由ナル心證ニ依ルベキ也

ニシテ當事者ノ提出シタル立證ノ結果ニ拘束セラレタルモノナリ此自由心證
主義ニ從ヘハ係争事實ニ關スル判斷ハ當事者ノ立證ノ結果ニ拘束セラレタル
ヲ以テ其實質の眞實ヲ得ルニ近シト雖モ裁判官ノ專擅ナル判斷ヲ生スルノ弊
ナシトセス然レトモ裁判官ノ智能カ發達シタル社會ニ於テハ自由心證主義ヲ
採用スルヲ當然トス我民事訴訟法ニ於テハ獨逸ノ民事訴訟法ト同シク自由心
證主義ヲ採用シ即チ訴訟事實ヲ判斷スルニハ法律ニ特定シタル場合ヲ除キ全
ク裁判官ノ自由心證ニ依リ辯論ノ全趣旨及ヒ證據調ノ結果ヲ參照シテ爲スヘ
キモノナリ即チ證據原因ニ基キ裁判官ハ當事者ノ主張ヲ眞實ナリト認ムルヤ
否ヤハ自己ノ自由ナル判斷ニ依ルモノト爲セリ
第二款 舉證ノ責任
舉證ノ責任トハ何人カ係争事實ニ付キ證明ヲ爲スノ必要アリ否ヤノ問題ナ
リ蓋シ訴訟事件ニ付テ當事者ノ主張事實ニ對シ裁判官カ確信ヲ爲ササル場合
ニ於テハ其當事者ノ主張事實ハ採用セラレヌシテ不利益ノ結果ヲ來スモノナ

リ故ニ當事者ノ主張事實ニ付キ争アリタル場合ニハ其主張事實ノ確信ヲ裁判官ニ與ヘタルニ於テハ當事者ハ不利益ノ結果ヲ被ルヲ免レシ是ニ於テカ係争事實ニ付テ證明ヲ爲スノ必要ヲ生ス其證明ノ必要ヲ稱シテ舉證ノ責任ヲ附セ何人カ舉證ノ責任アリヤハ訴訟法ノ立法ノ趣旨ニ從ヒ必スシモ一樣ナラス不干渉主義ヲ原則トセル民事訴訟法ニ付テハ舉證ノ責任ハ當事者ニ在リト謂ハサルヘカラス然リ而シテ當事者中孰レノ當事者カ舉證ノ責任アリヤノ問題ニ付テハ自己ニ利益ナル判決ヲ受クントスル當事者ニ舉證ノ責任存スルモノナリ換言セハ舉證ノ責任ハ係争事實ヲ主張シタル當事者ニ在リト謂ハサルヘカス何トナレハ係争事實ヲ主張シタル者ハ自己ノ主張事實ノ眞實ナルコトニ付テ裁判官ノ確信ヲ得サルトキハ自己カ訴訟ニ於テ違ヒシトスル目的ヲ達スルコトヲ得サレハナリ之ニ反シテ主張事實ヲ争フ者ハ相手方ノ主張カ不確實ナル場合即チ相手方ノ主張事實ニ付テ裁判官カ確信ヲ爲ササルトキハ何等ノ行為ヲ要セスシテ目的ヲ達スルコトヲ得ハキモノナレハナリ故ニ當事者カ自己ノ主張ヲ貫徹セシストスルトキハ其主張事實ニ付テ裁判官ノ確信ヲ得ルヲ必

要アリ隨テ舉證ノ責任ハ主張者ニ在リト謂フコトヲ得古代ノ訴訟法ニ在リテハ舉證ノ責任ハ常ニ當事者ノ一方ニ存シ相手方ニ舉證ノ責任存スルコトナカリシモ近世ノ立法ニ於テハ舉證ノ責任ハ當事者相互ニ分擔セラルモノナリ例ヘハ原告カ或事實ヲ主張シ被告カ之ヲ争ヒタル場合ニハ原告ハ主張事實ニ付キ舉證ノ責任アリテ被告ハ舉證ノ責任ナシ然レトモ被告カ新ナル事項ヲ主張シタル場合即チ抗辯ヲ提出シタル場合ニハ被告ハ其抗辯權ノ存在ニ付テ舉證ノ責任アリト謂ハサルヘカラス故ニ舉證ノ責任ハ當事者相互ニ分擔セラレ事實ヲ主張シタル者ニ於テ舉證ノ責任アルモノトス而シテ舉證ノ責任ハ主張者ニ在リトハ其原告タルト被告タルト消極的事實タルト將テ積極的事實タルトヲ區別スベキモノニ非ス但シハ之ハ命令及ハ代圖起スル時ハ例外ニ舉證ノ責任ハ前述シタル如クニシテ其舉證ヲ爲スベキ事項ハ争ヲ爲ラタル事實ナラサルヘカラス隨テ左ノ事項ニ付テハ舉證ノ責任ナシト爲スル中ニハ第一ニ法律ノ解釋ニ付テハ裁判官カ職務上知ルベキ義務アルカ故ニ當事者法律ノ存在並ニ解釋ニ付テハ裁判官カ職務上知ルベキ義務アルカ故ニ當事者

ニ於テ其存否解釋ニ付テ舉證ノ責任ナシ然レトモ單ニ當事者カ裁判官ニ注意ヲ與フル目的ヲ以テ意見ヲ述フルカ如キハ許サレタルモノニ非ス當事者ノ意見ハ裁判官ノ參考ニ止マリ其意見ニ拘束セラルモノニ非ス但法律ノ中ニテモ裁判官カ知ルヘキ法律ハ内國ニ行ハルル法律ニシテ尙ホ其法律ハ一般ニ行ハルル法律ナラサルヘカラス一地方ニ行ハルル法令又ハ外國法ノ如キハ到底裁判官ノ知ルコトヲ得サルモノナラカ故ニ職務上之ヲ知ルノ義務ナシ隨テ地方慣習法商慣習法規約外國ノ現行法ハ若シ裁判官ニシテ其法律ノ存否ヲ知ラサルトキハ當事者ニ於テ舉證ノ責任アリ然レトモ此等ノ法律ト雖モ裁判官ニシテ其存否ヲ知レル場合ニハ舉證ノ責任ナシ且裁判官ハ當事者ノ證明如何ニ拘ハラス職權ヲ以テ必要ナル取調ヲ爲スヘキモノトス第二一九條第二百九條ニ所謂商慣習トハ商慣習法ノ意ナリ法律ノ性質ヲ有セサル單純ナル慣習ハ全ク當事者ニ於テ舉證ノ責任アリ職權ヲ以テ取調ヲ爲スヘキモノニ非ス規約モ亦法律ノ性質ヲ有スルモノナラサルヘカラス例ヘハ一團體カ法律ニ基キテ定メタル規定ナルカ少クトモ其團體ニ關係セラル者ニ法律ト同シテ遵守スル

ノ義務ヲ負フモノナラサルヘカラス會社ノ定款ノ如キ組合團體ノ約束ノ如キハ所謂規約ト稱スヘキモノニ非ス外國現行法ノ如キハ或ハ法學者ニ就テ存否ヲ確メ若タハ著書等ニ就テ存否ヲ確メ得ルモノニシテ裁判官ハ之カ取調ヲ爲スニ一定ノ法則ニ據東セラルモノニ非ス外國ノ非現行法ハ普通ノ事實ト同シタ當事者ニ於テ舉證ノ責任アリトス則チ其モイマ爾ニ第二一法律上ノ推定ニ據テ自白ハ受審裁判官ノ口頭傳言等ニ據テ推定ニ因リテ推定セラレタル事實ハ舉證ノ責任ナシ唯其推定カ反證ヲ許ス場合ニシテ反證ヲ提出シテ推定ヲ爭ヒタルトキニハ舉證ノ責任問題ヲ惹起ス然レトモ反證ヲ許ササル法律上ノ推定若タハ反證ヲ許ス推定ニシテ反證ナキ限ハ舉證ノ責任ナシトス不採録ノ結果ニ至ル事實ハ真實ニ對シテ其推定ニ據テ第三ノ顯著ナル事實ニ據テ採録ノ結果ニ至ル事實ハ真實ニ對シテ其推定ニ據テ顯著ナル事實トハ訴訟ニ干與スル總テノ判事カ如何ナル疑ヲモ排斥スルコトヲ得ヘキ程度ニ於テ知り得タル事實ヲ謂フ其知り得タル原因ハ職務上ノ行為ニ基キト又職務以外ノ行為ニ因リテ知り得タル場合ナルヲ問ハス又多數ノ

入ノ間ニ於テ何等ノ疑ハ無キ事實ト認明シテ其後ハ其間ハ附ルオモトモトモ
八條ニ於テ何等ノ疑ハ無キ事實ト認明シテ其後ハ其間ハ附ルオモトモトモ
第四ノ自白言ハハ海潮ニ干興スル雖モ其後ハ其間ハ附ルオモトモトモ
自白トハ相手方ノ主張シタル不利シタル事實ヲ眞實ナリトスル陳述ヲ謂フ換
言セバ自己ノ權利上ニ不利シタル結果ヲ來ス事實ヲ眞實ナリトスル陳述ニ外ナ
ラス而シテ自己ハ裁判上ニ自白ト裁判外ノ自白トニ種類アリ裁判外ノ自白
ハ訴訟法上ニ於テ特定ノ效力ヲ生スルモノニ非ス雖モ裁判外ニ於テ自白ト
ハ事實ニ付テハ舉證ノ責任ヲ免ルルモノニ非ス舉證ノ責任ヲ免ルル自白ハ裁
判上ノ自白ニ限ル而シテ裁判上ノ自白ハ受訴裁判所ノ口頭辯論若クハ受命判
事ノ審問ニ於テ當事者ノ一方カ自己ニ不利シタル事實ヲ陳述スルコトヲ謂フ
事ノ審問ニ於テ當事者ノ一方カ自己ニ不利シタル事實ヲ陳述スルコトヲ謂フ
事ノ審問ニ於テ當事者ノ一方カ自己ニ不利シタル事實ヲ陳述スルコトヲ謂フ
法ニ於テハ自白言ハハ相手方ノ主張ニ對シテ防禦方法ヲ拋棄スル外ナラズ書
明スルモノニ非ス事實ノ眞實ナリヤ否ヤハ問題外トシテ相手方ノ主張シタル
自己ニ不利シタル事實ヲ爭ハサル陳述カ自白ナリ此裁判上ノ自白ニ限リ示シ

モノト暗黙ノモノトノ區別アリ明示ノ自白ハ當事者ノ陳述ニシテ暗黙ノ自白
ハ所謂自白ノ推定ニシテ民事訴訟法第一百十一條第二百四十八條等ニ規定セラ
レタル場合はナリ而シテ自白アリタル事實ニ付テハ舉證ノ責任ハ之ヲ免ルル
ヲ以テ原則トス然レトモ自白シタル事實ナリト雖モ裁判官カ眞實ナルコトヲ
確信セサル場合は於テハ仍ホ舉證ノ責任ヲ免ルルモノト得タルモノトス殊ニ
公益ニ關スル事件即チ人事訴訟事件ニ付テハ自白ニ關スル法則ハ大ニ制限セ
ラレ自白アリタル事實ニ付テハ仍ホ職權調査ヲ爲ササルベカラサル場合少シ
ト爲ナス(人事訴訟手續法第一〇條第二六條第三九條參照)

自白ハ認諾ト其性質ヲ異ニス認諾トハ既に前述シタル如ク相手方ノ主張シタ
ル權利ヲ爭ハサル旨ノ意思表示ニシテ相手方ノ主張スル請求ニ對シテ總テノ
防禦ヲ拋棄スルモノナリ自白ハ相手方ノ主張シタル事實ニ付テハ防禦ヲ拋
棄スルモノナリ故ニ自白ト認諾トハ其目的物ニ於テ權利ト事實トノ差異アル
モノトス又認諾アリタルトキハ直チニ事件ノ審理ヲ終了スベキモノナリト雖
モ自白アリタルトキニハ之ニ因リテ事件ノ終了ヲ爲スベキモノナリト雖

此等ハ明白ト認諾トノ差異ノ重要ナルモノト謂フコトヲ得ヘシ其他明白ニハ推定自白アリ又第一審ニ於テ爲シタル自白ハ錯誤アリタルトキニ非テハ第二審ニ於テモ取消スコトヲ得ス。其目的ハ第一審ノ事實ハ、第二審ニ於テハ、以上述ヘタル四種ノモノハ、舉證ノ責任ヲ免ルルモノナリ其他ノ事實ハ付テハ前述シタル分擔ノ原則ニ從ヒテ舉證ノ責任アルモノトス。前記ニ據リテ、

第三款 證據調ノ通則

證據調トハ證據方法ヲ利用スルコトヲ謂フ裁判官カ當事者ノ提出シタル證據方法ニ包含セル事項ヲ調査スルヲ謂フ而シテ證據調ノ手續ハ本案訴訟ノ一部ニシテ直接審理ノ法則ニ從フヘキモノナルカ故ニ受訴裁判所ニ於テ證據調ヲ爲スヲ通例トス(第二七三條第一項然レトモ法律ニ於テ特定シタル場合ニハ受訴裁判所ノ部員一名ニ命シ又ハ他ノ區裁判所ニ法律上ノ共助ノ法則ニ從ヒ屬託シテ爲スコトヲ得ヘシ裁判所カ自ら證據調ヲ爲スヲ受命判事又ハ受託裁判所ヲシテ爲サシムルトキニハ決定ヲ以テ之ヲ言渡スヘキモノトス此決定ニ對

シテハ不服ヲ申立ツルコトヲ得ス(第二七三條第二項第三項尙モ證據調ヲ外國ニ於テ爲スヘキ場合ニハ外國ノ管轄官廳又ハ帝國ノ領事公使ニ屬託シテ之ヲ爲ス(第二八一條) 證據調ノ手續ハ、第一、證據調ノ限度、第二、證據調ノ場所、第三、證據調ノ時期、第四、證據調ノ費用、第五、證據調ノ結果ニ對シテハ受訴裁判所之ヲ定ムヘキモノトス(第二七四條第一項此規定ハ特ニ法律ニ之ヲ定ムルノ必要ヲ認メサルナリ何トナレハ此規定存セサルモ如何ナル事實カ爭ニ係ルヤ否ヤ若シ爭ト爲リタルトキ證明ヲ必要トスルヤ否ヤハ裁判所ニ於テ判斷スヘキ事項ナルカ故ニ縱令當事者カ數多ノ證據ヲ申出ツルモ其證據カ必要ナリヤ或ハ不必要トシテ之ヲ排斥スヘキモノナリヤハハ裁判官ノ意見ニ從フヘキモノトス隨テ第二百七十四條第一項ノ規定存セザルモ法理當然ノ事項ナリト謂ハサルヘカラズ唯同一ノ事實ヲ證明スルカ爲メニ數多ノ證據申出ヲ爲シタル場合ニハ當事者ノ申立テタル證據ハ皆之ヲ取調フヘキモノナリヤ否ヤニ付テハ疑ナキ能ハスト雖モ此場合ニ於テモ亦前述シタル原則ニ從ヒ

ヲ裁判官ハ取捨ヲ爲シ得ヘキモノナリ例ヘハ事案カ争ト爲リテ場合ニ
數人ノ證人ヲ申請シタリト假定セシム此場合ニ裁判官ハ其中二人ヲ訊問シテ
當事者ノ主張事實ヲ證明シ得ヘキモノト認メタル場合ニハ其一人ヲ取調シテ
他ノ者ヲ排斥スルコトヲ得ル如キ即チ是ナリ蓋シ本條ノ規定ハ當事者ハ口
頭辯論ノ終結ニ至ルマデ攻撃防禦ノ方法ヲ提出スルコトヲ得ルモノナリ
ト雖モ裁判所ハ當事者ノ申出タル證據方法ハ悉ク取調別爲スル必要ナキコ
トヲ明定シタルモノナランカ
第二 證據調ノ費用ハ當事者ニ於テ豫メ之ヲ裁判所ニ納付セサルハカラズ
然ラザレバ證據調ヲ爲サズ但該費用ヲ納付スルキコトヲ付テ裁判所ニ於テ
一定ノ期間ヲ定ムルコトヲ要ス其期間滿了後ト雖モ訴訟手續ヲ遅延セシメサ
ル場合ナルトモハ期間滿了後ノ納付ニ依リテ更ニ證據調ヲ許スコトヲ得第二
八八條故ニ若シ費用ヲ豫納セサルトモ主張者ハ恰モ證據ヲ申出テ爲サズル
ト同一ノ結果ヲ來シ不利益ノ裁判ヲ受タルコトナラズモ數テ免レサル所ナ

ハ事實ニ付テ當事者ハ其證據文書ヲ申出テ欲セザルハ其自由ニ其證據文
第三 證據調前ノ手續ハモ 裁判官ハ證據調ニ當リテハ其證據文書ヲ
證據調ニ付テハ當事者ノ演述ト同時ニ之ヲ爲スルキ場合ト當事者ヲ演述ト分
離シテ之ヲ爲スルキ場合トノ二アリ而シテ當事者ノ演述ニ引續キ直テ證據
調ヲ爲スルキ場合ハ口頭辯論ニ於テ當事者カ證書ヲ提出シ又ハ證人鑑定人カ
裁判所ノ呼出ヲ受ケスシテ口頭辯論期日ニ出頭シ若クハ裁判所カ檢證ヲ爲ス
ヘキ物件カ口頭辯論ニ於テ當事者ヨリ提出セザレタル場合ナリトモ之ニ反シ
テ當事者ヨリ證據方法トシテ申出タル證人鑑定人ヲ訊問スル爲メ特ニ裁判
所カ呼出ヲ發スルモノト必要ト爲スヘキ場合又ハ檢證ノ爲メ臨檢ヲ必要ト爲
スヘキ場合等ニ在リテハ當事者ノ演述ニ引續キ證據調ヲ爲スルコトヲ得其證
據調ニハ特別ノ手續ヲ必要トス即チ受訴裁判所ニ於テ新ニ證據調ノ期日ヲ定
メ其期日ニ於テ證據調ヲ爲スカ或ハ受命判事受託判事ノ面前ニ於テ證據調ヲ
爲スヘキモノト此場合ニ於テハ受訴裁判所ハ證據決定ニ因リテ證據調ヲ命
スルモノナリト第二七四條第二項ハ「手続モ以テ證據調ヲ爲スルモノナリト

證據決定トハ當事者ノ辯論ニ分難シ特別ノ手續ヲ以テ證據調ヲ爲スヘキコトヲ命スル訴訟指揮上ノ命令ナリ而シテ證據決定ヲ爲スハ當事者ノ證明ヲ必要トスル事實ニ對シテ證據ヲ申出タルモノトシテ必要トスル故ニ證據決定ヲ爲スニ次ニ述フル二箇ノ要件ヲ具備スルコトヲ要ス

(一) 證據ヲ必要トスル事實存在スルコト 證據ヲ必要トスル事實トハ當事者ノ主張スル事實ノ其否カ訴訟ニ付テハ裁判ニ影響ヲ及ボスヘキモノニシテ且其實實力爭ニ係ルモノヲ謂フ故ニ訴訟ニ付テハ裁判ニ影響ヲ及ボササル事實ニ付テハ經合爭ニ係リテ當事者ヨリ證據ヲ申出ヲ爲スニ裁判所ハ證據決定ヲ爲スヘキモノニ非ス又裁判ニ影響ヲ及ボスヘキ事實ナルモ當事者間ニ於テ爭ナキ事實又ハ爭アル事實ト雖モ舉證ノ責任ニ於テ既ニ述ヘタルカ如ク裁判所ニ顯著ナル事實其他法律ニ依リテ推定セラレタル事實ニ付テハ當事者ヨリ證據ヲ申出ヲ爲スモ裁判所ハ證據決定ヲ爲スヘキモノニ非ザルナリ

(二) 證據方法ノ申出アルコト 裁判所カ證據決定ヲ爲スニハ證據ヲ必要トスル事實ニ付テ當事者ヨリ證據方法ノ申出ヲ爲ササルヘカラス而シテ其證據方

法ノ申出ハ證據ヲ必要トスル事實ニ付テ其真偽ヲ明カニスルコトヲ得ヘシ證據ヲ完全ニ申出タルコトヲ必要トス完全ナル證據ハ申出トハ證據ヲ申出カ法律ノ規定ニ適合スルコトヲ及ビ申出タル證據ハ價值カ立證事項ヲ證明スルニ足ルモノナルコトヲ豫想シ得ヘシ所謂全故ニ訴訟法上ノ方式ニ違背シタル申出例ヘテ證據ヲ申出ヲ爲スモ證據方法ヲ申出タル者ハ證據方法ヲ申出タル爲スモ其申出ノ方式カ訴訟法ニ違背セシトモ若シテ當事者ヲ申出タル證據方法カ立證ノ目的ヲ達スル價值ナキモノト明白ナル場合ハ如キハ完全ナル證據ヲ申出ト謂フコトヲ得サルヲ以テ斯ル場合ニ於テハ裁判所ハ證據決定ヲ爲スルモノニ非ズルカリ證據決定ヲ爲スニハ當事者ヨリ證據方法ノ申出アルコトヲ必要トスルモノニ非ズル故ニ裁判所ハ其職權所屬ニ於テ檢證、鑑定ヲ能ハル場合ニ於テハ證據決定ヲ爲スヘキモノニ非ス(第一七條參照)而シテ其證據決定ヲ爲スニ付テ當事者ヨリ證據ヲ申出タルコトヲ必要トスルモノハ第二百七十六條第三號ノ規定ニ依リテ明白ナリトス

以上述ヘタル二箇ノ條件ヲ具備スル場合ニ於テハ裁判所ハ必ズ證據決定ヲ爲

証人等モシトス而シテ其證據決定ニハ左記ノ事項ヲ斟酌アルコトヲ必要トス第
二七六條

(イ) 當證據ニキ係爭事實ヲ表示シ此表示ニ係爭事實ヲ當事者及ハ裁判官等
人若クハ鑑定人ニ疑ヲ生セタル程度ニ於テ表示シタル必要事項ニ依リテ
(ロ) 證據方法ノ表示殊ニ證人鑑定人ヲ訊問スル必要事項ニ其表示協助ヲ取調ヲ
爲スヘキ證據方法ヲ表示スルコトヲ必要トス
(ハ) 出證據方法ヲ申出タル原告若クハ被告ハ表示其證據決定ニ口頭辯論ニ基
テ裁判所ノ決定ナルカ故ニ之ヲ言渡スコトヲ必要トス然レトモ證據決定ニ特
ニ之ヲ書面ニ作成スルコトヲ要セザルナリ證據決定ヲ言渡サレタルトキ此
決定ニ依リテ特別ノ證據調ヲ命ゼラルモノアルヲ以テ當事者ハ口頭辯論
證據決定ニ基テ證據調ヲ手續ノ完結ニ至ルマデ中止セラルモノアルニ依リテ
證據決定ノ施行即チ證據調ハ裁判所ノ職權ニ以テ之ヲ爲スモノアルニ依リテ
二七七條第二項裁判所ハ其決定ノ施行前ニ於テ一旦爲シタル證據決定ノ變
更ヲ爲スコトヲ得ヘク又全ク其證據決定ヲ施行セザルコトヲ得ヘキカリ何

カレハ證據決定ハ訴訟指揮上ノ命令ナルヲ以テ此命令ハ裁判所ノ自由ニ變更
ヲ爲スコトヲ得ヘキ性質ヲ有スルモノナルハナリ故ニ例ヘハ當事者ノ申出ニ
因リテ甲乙二人ヲ證人トシテ取調フヘキコトヲ決定シタル後甲若クハ訊問ス
ル結果係爭事實ノ眞否ニ付キ既ニ確信ヲ得タル場合ニ於テハ乙若クハ訊問ス
ルコトヲ止ムルコトヲ得ヘク又例ヘテ甲乙二人ノ證人ヲ訊問スヘキコトヲ決定
シタル後當事者ノ前辯論ノ趣旨ヲ參酌シタル結果既ニ甲乙二人ヲ訊問スルコ
トノ必要ヲ認メタルニ至レル場合ニ於テハ證據決定ヲ全ク施行セザルコトヲ
得ヘキモノトス然レモ或ハ第二四十五條第二項ノ規定ニ依リ證據決定ハ之
ヲ取消スコトヲ得スト論スル者アルヘシト雖モ該規定ハ決定ノ性質ニ反スル
モノニシテ立法ノ誤點トス蓋シ證據決定ハ訴訟指揮上ノ命令ナルヲ以テ當事者
ノ變更ヲ申立テ若クハ其決定ノ施行ヲ逕延セザルコトヲ得タルナリ然レモ
雖モ絕對的ニ證據決定ノ變更ヲ求ムル權利ヲ有セザルモノニ非ズ證據決定ノ
施行完結前ニ於テ新ナル辯論ニ基テトキニ限リ其變更ヲ申立タルコトヲ得

モテリシ舉證者ハ其過失ニ非スシテ證據調ハ期日ニ出頭スルコト能ハサリシ
官ヲ説明スルコトニ於テハ判決ニ接著スル口頭辯論ノ終結ニ至ルマデ證據調
ヲ補充若クハ追完ヲ舉證者ノ申立ニ因リ命スルコトヲ得ヘキモノナリ(第二八
四條第二項)從テ證據調ハ至リテハ其後ハ補充若クハ追完ヲ命スルコトヲ得
右舉證者ノ追完補充ノ申立ハ受訴裁判所ノ口頭辯論ニ於テノ爲スコトヲ得
ヘキモノニシテ受命判事又ハ受託判事ノ面前ニ於テ之ヲ爲スコトヲ得ナルモ
ノトス而シテ此等ノ申立ノ許可ニ關シ相手方ニ爭ナキ場合ニ於テハ裁判所ハ
舉證者ノ申立カ其要件ヲ具備スルモノト認ムルコトハ更ニ證據決定ヲ以テ證
據調ノ追完若クハ補充ヲ命シ申立ノ許可ニ關シ相手方ニ爭アル場合ニ於テ
ハ一ノ中間爭ナルヲ以テ申立ヲ許スニハ中間判決ヲ以テ爲スヘク又申立ヲ却
下スル中間判決若クハ終局判決ノ理由中ニ於テ裁判ヲ爲スヘキモノナリ
裁判所ハ證據決定ニ基テ證據調ノ施行ニ際シ不長時間ノ障礙アルトキ例ハ
第三者ヲシテ證書ヲ提出セシムル場合又ハ證人ノ居所不明ナル場合等ニ於テ
ハ舉證者ノ申立ニ因リ障礙ヲ排斥スル爲メ相當ノ時間ヲ定ムヘキモノトス

而シテ此場合ニ於テハ證據調ハ其期間ヲ滿了後ニ於テ爲スヘキモノトス若シ
其期間滿了後ニ至ルモ其障礙ヲ排斥スルコトヲ得タル場合ニ於テハ舉證者ハ
訴訟手續ヲ遲滞セシメタル限ハ其證據方法ヲ用フルコトヲ得ヘキモノトス
受訴裁判所ハ證據決定ニ基テ證據調ヲ爲シタル後未タ係爭事實ノ異否ニ付キ
確信ヲ得ルコト能ハサル場合ニ於テ同一事實ノ立證ニ關シ當事者ヨリ更ニ證
據方法ヲ申出ヲ爲シタルトキハ裁判所ハ更ニ同一事實ニ關スル立證ノ爲メ證
據決定ヲ爲スコトヲ得ヘキモノトス既ニ前ノ證據決定ニ基テ證據調ニ依リ係
爭事實ノ異否ニ付テ確信ヲ得ル場合ニ於テハ更ニ證據決定ヲ爲スコトヲ要セ
ス(第二八五條)從テ證據調ハ合意(第二八六條第三項)ハ證據調ハ合意(第二八六條第三項)ハ證據調ハ合意(第二八六條第三項)
證據調ハ受訴裁判所ニ於テ又ハ受命判事若クハ受託判事ノ面前ニ於テ又ハ外
國ニ於テ爲スヘキモノナリ

(一) 受訴裁判所ニ於テハ證據調ハ受訴裁判所ニ於テハ證據調ハ直接審理ノ原
則ニ基キ之ヲ爲スモノナリ而シテ此場合ニ於テハ受訴裁判所ハ裁判長ハ證據
調ノ期日ヲ證據決定ト同時ニ指定スルモノトス其證據調ノ期日ニ於テ證據

調力完結セザルに至リ若シ其他の理由由テ因テ更ニ證據調ヲ爲スル必要生ジタルトキニ於テハ縱令其證據調ノ期日ニ畢證者又ハ當事者雙方其出頭セザル場合ト雖モ裁判所ハ職權ヲ以テ更ニ證據調ノ期日ヲ指定スルモノナリ（第二七三條第二八六條參照）

(二) 受命判事又ハ受託判事ノ面前ニ於テ證據調ヲ受命判事又ハ受託判事ノ面前ニ於テ證據調ヲ爲ス場合ハ第二百九十六條第三百十八條等法律ニ特定セル場合ニ限ルモノトス而シテ此場合ニ於テハ證據決定と同時に受託裁判所ノ部員若シハ嘱托ヲ爲ス裁判所ヲ證據決定ト併合テ決定ヲ以テ指定スベキモノナリ此決定ニ對シテハ不服ヲ申立ズルモノトス得ス（第二七三條第二項第三項）受託裁判所ノ部員ヲシテ證據調ヲ爲シタル場合ハ證據決定言渡ノ際裁判長ハ受命判事ヲ指名シ且證據調ノ期日ヲ定ム若シ受命判事ハ證據決定ヲ施行ス際シテ差支ヲ生シタルトキ則於テハ裁判長ハ更ニ他ノ部員ヲ口頭辯論ヲ開カシメ受命判事ニ指定ス而シテ裁判長ハ證據調ノ期日ヲ證據決定ト同時ニ定メサリシトキハ受命判事其期日ヲ定メ又受命判事ハ證據調ヲ實行スルニ當リ

雜 談

○株式會社成立前其會社ヲ爲シタル行為ニ關シテ發起人等ハ會社ヲ成立前ニ於テ會社ヲ爲スニ爲ス行為ノ性質該ニ其效力ニ付テハ種種ノ學說ヲ見ル所ナレカ我大審院ハ簡單ニ解決シテ曰ク他日成立シタル會社ノ爲メニ締結スル契約ハ則チ其會社ノ成立ヲ條件ト爲シタル契約ニ外ナラシメ斯カの場合ニハ其利益ヲ享受スヘキ第三者ハ其契約當時必ラス現存スルヲ要スルモノニアラス（大審院明治三十五年三月十六日第一三三號民事判決）
○株主ノ總會ノ決議無効宣告請求權（舊法）本月十七日本院講議會ニ於テ富谷博士カ論述セラレタル如ク我商法第六十三條ハ規定ハ幾多ノ疑問ヲ含ム所ナルカ同條ニ定ムル無効宣告請求權ノ性質ニ關シ實際問題ニ現レ大審院カ判斷ヲ經タル事件ニ於テ上告代理人ハ上告論旨ハ一部ニ論シテ曰ク抑亦行為ノ無効トハ其行為カ法律ノ或規定ニ違背セリカ爲メ法律上ノ效果ヲ生スルモノナク法律上全ク存在セザルモノナリ見做然ルニ然ル狀態要謂又該ニ無効宣告效果ハ行

爲ノアヲタルトキ當然發生シ當事者ニ加効參與ヲ要スルコトハ裁判所ノ宣
告ヲ決ツコトナシ裁判所カ或者ノ請求ニ因リ行爲スル無効ヲ宣言スルハ其宣
言ニ因リテ初メテ無効ノ效力生ズル所以ナリ株式會社ノ總會ノ決議モ亦一體ノ
行爲ナレハ商法第六十三條ニ規定スル總會決議ノ無効モ上述ノ軌道ヲ脱ス
ル能ハス即チ總會ノ招集ノ手續又ハ其決議ノ方法法令又ハ定款ニ反スル
キハ當然決議ノ無効ヲ來ス同條ニ裁判所ハ株主ノ請求ニ因リ其決議ノ無効
ヲ宣告スルコトヲ得トアルモ裁判所ヲシテ有效ノ決議ヲ無効ナリト宣告セシ
メ又ハ之ヲ新ニ取消シシムル法意ニ非ス畢竟株主及ヒ其利害關係者ノ異議ヲ
排除スル爲メ裁判宣告以前ヨリ無効ナル決議ヲ其狀態ニ應ジテ無効ナリト宣
言セシムル意ニ外ナラス云々之ニ對シ大審院ハ反對ノ理由ヲ示シテ曰ク商
法第六十三條ニ於テ總會ノ決議無効ヲ宣告シ裁判所ニ請求スルコトヲ株主
ニ許シタル規定ハ上告論旨ニ如キ法意ニテラス株主ノ取消權ヲ認メ之ヲ
基テ其取消ヲ爲サシムルモノナルコトハ同條第二項ニ於テ取消ヲ請求スル期
間ヲ限定シ其期間經過ノ後ハ決議ノ有效ニ確定スヘキモノナルコトヲ示シタ

ルニ依テ明瞭ナリト(大審院明治三十五年(即十六年四月六日)第二民事部判決)
○他地拂手形ノ呈示及ヒ拒絕證書作成ノ地域ハ所謂他地拂ノ手形即チ支拂
地カ支拂人ノ住所地下異ナル場合ニ於ケル手形ノ所持人カ償還ノ請求ヲ爲サ
ント欲スルトキハ其支拂地ニ於テ支拂擔當者ニ手形ヲ呈示シテ支拂ヲ求ムヘ
ク若シ支拂擔當者ノ記載ナキトキハ支拂人ニ呈示シテ支拂ヲ求ムヘク而シテ
其支拂ヲ受ケタルトキハ支拂拒絕證書ヲ作ラシメ且償還請求ヲ通知ヲ發スヘ
キモノナルコト商法第四百九十條ニ明記セル所ナリ然ルニ若シ其手形ニ支拂
擔當者ノ記載ナク又支拂人カ支拂地ニ在ラサル場合ニ於テハ同第四百四十二
條ノ規定ニ從ヒ支拂人ノ營業所又ハ住所又ハ居所ニ於テ右ノ呈示ヲ爲シ其地
ニ於テ拒絕證書ヲ作成セシムルモ仍ホ有效トスヘキカ大審院ハ之ニ消極ノ斷
定ヲ與ヘテ曰ク商法第四百四十二條ハ手形ノ呈示拒絕證書ヲ作成其他手形止
ノ權利ノ行使又ハ保全ニ付利害關係人ニ對シテ爲スル行爲ヲ行フヘキ場所
ニ關スル規定ニシテ同法第四百九十條ハ手形ノ呈示及ヒ拒絕證書作成ノ行爲
ヲ爲スヘキ地域ニ關スル規定ナリ乃チ第四百九十條ノ規定ハ支拂地カ支拂人

ノ住所ト異ナル場合ニ於テ手形ノ呈示及ヒ拒絕證書ノ作成ハ支拂地ニ於テ
爲スヘキ旨ヲ明定シタルヲ以テ支拂地ト支拂人ノ住所ト同一ナル場合ニ於
テハ手形ノ呈示及ヒ拒絕證書ノ作成ハ支拂人ノ住所地(即支拂地)ニ於テ爲ス
キ旨モ亦暗示シタルモノト云フヲ得ヘシ之ヲ要スルニ手形ノ所持人カ其前者
ニ對シテ償還ノ請求ヲ爲サント欲スルトキ支拂ヲ求ムル爲メ手形ノ呈示
及ヒ拒絕證書ノ作成ハ必スヤ支拂地ニ於テ爲スコトヲ要スルモノニシテ此
爲ヲ爲スヘキ地域ニ關シテハ本論旨ノ如キ商法第四百四十二條ノ第四百九
條トノ間ニ原則ト例外規定トノ關係アルコト無シ故ニ本件ノ如ク支拂地カ
支拂務者ノ住所ト異ナル場合ニ於テハ手形ノ所持人カ前者ニ對シテ償還
求ヲ爲サント欲スルトキハ手形ノ呈示及ヒ拒絕證書ノ作成ハ指定ノ支拂地ニ
於テ支拂務者ニ出會スルヲ得タルト否トニ拘ラス必スヤ支拂地ニ於テ爲ス
コトヲ要スルハ實ニ原判決ニ於テ判示スル所ノ如ク何トナレハ支拂務者ノ
在否ハ手形ノ呈示及ヒ拒絕證書ノ作成ニ影響スルモノニ非ズトハ才也ト(大
正三十六年四月十八日第一民事部判決) 昭和四年四月十八日第二民事部判決

大正三十六年四月十八日第一民事部判決 昭和四年四月十八日第二民事部判決

ノ住所ト異ナル場合ニ於テ手形ノ呈示及ヒ拒絶證書ノ作成ハ支拂地ニ於テ爲スヘキ旨ヲ明定シタルヲ以テ支拂地ト支拂人ノ住所ト同一ナル場合ニ於テハ手形ノ呈示及ヒ拒絶證書ノ作成ハ支拂人ノ住所地即支拂地ニ於テ爲スヘキ旨モ亦暗示シタルモノト云フヲ得ヘシ之ヲ要スルニ手形ノ所持人カ其前者ニ對シテ償還ノ請求ヲ爲サント欲スルトキ支拂ヲ求ムル爲ニ手形ノ呈示及ヒ拒絶證書ノ作成ハ必スヤ支拂地ニ於テ爲スコトヲ要スルモノニシテ此行爲ヲ爲スヘキ地域ニ關シテハ本論旨ノ如キ商法第四百四十二條第四百九十九條トノ間ニ原則ト例外規定トノ關係アルコト無シ故ニ本件ノ如ク支拂地カ支拂義務者ノ住所ト異ナル場合ニ於テハ手形ノ所持人カ前者ニ對シテ償還請求ヲ爲サント欲スルトキハ手形ノ呈示及ヒ拒絶證書ノ作成ハ指定ノ支拂地ニ於テ支拂義務者ニ出會スルヲ得タルト否トニ拘ラス必スヤ支拂地ニ於テ爲スコトヲ要スルハ實ニ原判決ニ於テ判示スル所ノ如シ何トナレハ支拂義務者ノ在否ハ手形ノ呈示及ヒ拒絶證書ノ作成ニ影響スルモノニ非サレハナリト(大正明三治三十六年四月十八日第一民事部判決事)

(注 意) 校外生月謝納付ノ際ハ必ス本紙ヲ切抜キ居所氏名及爲替總額(金額)並ニ學年別、月謝ノ月別若シハ何月分ヨリ何月分迄ト記入シ爲替券ニ添附スルモノトス

納 付 書

爲替總額 ()

一金

但三十六年度第 學年 月分月謝

右納付候也

居所

明治三十六年 月 日
和佛法律學校會計局御中

納 付 書

爲替總額 ()

一金

但三十六年度第 學年 月分月謝

右納付候也

居所

明治三十六年 月 日
和佛法律學校會計局御中

五月十五日發行)

其他

發行所
和佛法律學校

發行所
司法省
指定
和佛法律學校

東京市麴町區富士見町六丁目十六番地

(電話番町百七十四番)

印刷者 小宮山信好

東京市牛込區矢來町三番地

印刷所 金子活版所

金子活版

金子活版所

發編
行輯
者錄

荻
原
敬
之

東京市牛込區牛込北町十番地

市牛込區牛込北町十番地

牛込北町十番地

東京市牛込區矢來町三番地

東京市牛込區矢來町三番地

市牛込區矢來町三番地

臨矢來町三番地

印刷者 小宮山信好

小宮山僧

小宮山信

小宮山信好

印刷所 金子活版所

金子活版

金子活版

金子活版所

東京市麴町區富士見町六丁目十六番地

麴町區富士見町六丁目十六番

富士見町六丁目十六番

町六丁目十六番地

(電話番町百七十四番)